

C A L A M V S G L A D I O F O R T I O R

平成19年度

2007年

文学部
履修案内
(三田キャンパス)

目次

文学部役職者

平成19年度学事関連スケジュール

第1	はじめに【2・3・4年生共通(04学則)】	1	第5	2・3・4年生設置科目について(04学則)	22
1	学則について.....	1	1	総合教育科目および語学科目一覧.....	22
2	履修案内について.....	1	2	必修語学科目.....	23
3	単位について.....	1	3	総合教育科目.....	24
4	卒業に必要な単位数.....	2	4	総合教育科目の系列外科目.....	24
5	分野と分野番号について.....	2	5	専門教育科目.....	25
6	履修申告について.....	3	6	自由科目.....	27
7	成績評語と成績質問制度について.....	3	第6	2・3・4年生での履修にあたっての	
第2	学籍【2・3・4年生共通(04学則)】	4		注意事項【2・3・4年生(04学則)】	28
1	休学.....	4	1	一般的注意事項.....	28
2	留学.....	4	2	2年生への注意事項.....	28
3	退学.....	6	3	2年生での必修語学の履修方法.....	29
4	再入学.....	7	4	学士入学および2年編入の学生への注意事項.....	31
第3	試験・レポート・質問制度・卒業論文		5	学芸員資格の取得について.....	31
	提出要領【2・3・4年生共通(04学則)】	8	6	よくある質問.....	32
1	定期試験.....	8	第7	専攻別内規および注意事項	
2	レポート.....	9		【2・3・4年生(04学則)】	33
3	追加試験.....	9		専攻内規.....	34
4	再試験.....	10		B欄による申告方法【2・3・4年生(04学則)】.....	70
5	卒業試験.....	10	第8	学事Webシステム履修申告(マニ	
6	試験における不正行為の取り扱いについて.....	11		アル)【2・3・4年生共通(04学則)】	71
7	成績通知.....	11	1	学事Webシステムについて.....	71
8	「成績評語に関する質問制度」について.....	11	2	学事Webシステム操作上の注意.....	71
9	卒業論文提出要領.....	12	3	学事Webシステムによる履修申告方法.....	72
第4	諸届・学生証・証明書・掲示板・		4	学事Webシステムの操作説明.....	72
	その他【2・3・4年生共通(04学則)】	13	5	履修申告用紙による方法.....	75
1	学事センターの窓口.....	13			
2	現住所変更届(本人・保証人)、保証人 変更届、改姓(名)届、国籍変更.....	13			
3	学生証(身分証明書).....	14			
4	各種証明書(学割証など).....	14			
5	教室使用申請について.....	16			
6	学生総合センター.....	17			
7	定期健康診断について.....	20			
8	掲示板.....	21			
9	その他.....	21			

文学部役職者

学部長	：長谷山 彰（日本史学）
日吉主任	：坂上 貴之（心理学）
三田学習指導主任	：松浦 良充（教育学）
三田学習指導副主任	：浜 日出夫（社会学）

専攻担任

専 攻	専攻担任					
哲学	中川純男	堀江 聡				
倫理学	谷 寿美	柘植尚則				
美学美術史学	林 温	大石昌史	遠山公一	西川尚生		
日本史学	井奥成彦	中島圭一	浅見雅一			
東洋史学	坂本 勉	山本英史	吉原和男	桐本東太		
西洋史学	大森雄太郎	神田順司	吉武憲司	藤田苑子	神崎忠昭	山道佳子
民族学考古学	阿部祥人	杉本智俊	佐藤孝雄	山口 徹	安藤広道	
国文学	松村友視	藤原茂樹	佐藤道生	石川 透		
中国文学	山下輝彦	八木章好	渋谷誉一郎	杉野元子	吉永壮介	
英米文学	巽 孝之	松田隆美	スカヒル, ジョン	河内恵子	大串尚代	高橋 勇
独文学	斎藤太郎	大宮勘一郎	糸川麻里生	香田芳樹		
仏文学	市川 崇	喜田浩平	岑村 傑	築山和也	井上櫻子	
図書館・情報学	倉田敬子	岸田和明	安形麻理			
社会学	平野敏政 岡原正幸	榭 博文 檉尾直樹	鈴木正崇 長尾真理	浜 日出夫	藤田弘夫	李 光鎬
心理学	山本淳一（春）		梅田 聡（秋）	大森貴秀		
教育学	安藤寿康	松浦良充	真壁宏幹	山梨あや	藤澤啓子	
人間科学	南 隆男 北中淳子	渡辺秀樹	宮坂敬造	鹿又伸夫	小林ポオル	織田輝哉

日吉学習指導主任および副主任

学部・研究所	担当者	
文学部	主任：大場 茂	副主任：坂本 光、市川 崇
経済学部	主任：福山 欣司	副主任：柏崎 千佳子、鈴木 直樹、宮崎 直哉
法学部	主任：安田 淳	副主任：武藤 浩史、志村 正、太田 昭子、三瓶 慎一、笠井 裕之
商学部	主任：渡部 陸夫	副主任：許 曼麗、深澤 はるか、ハンリー, マシュー
医学部	主任：長井 孝紀	
理工学部	外国語・総合教育	主任：熊倉 敬聡 副主任：井上 京子、荒金 直人
	基礎系	主任：野寺 隆 副主任：鈴木 哲也、大槻 知明
体育研究所	主任：石手 靖	副主任：村山 光義、松田 雅之

【日吉】履修申告前の学習指導相談期間 4月9日(月)～17日(火) ※日曜・祭日を除く

履修についての質問、相談に所属学部学習指導担当教員が応じています。また、日吉学事センター所属学部窓口でも相談を受け付けます。

学部	学習指導相談会場	相談時間
文学部	第4校舎B棟地階 特設会場	12:15～13:00 土曜日を除く
理工学部	第4校舎B棟地階 特設会場	12:15～13:00 土曜日を除く
経済学部	藤山記念館 1階大会議室	12:15～13:00
法学部・商学部	藤山記念館 1階大会議室	各授業毎の休み時間および 12:15～13:00

平成 19 年度（2007年度）学事関連スケジュール

春 学 期	3月 30日（金） 10：00～13：30（121番教室）	2年生履修案内配布	
	14：00～17：00（121番教室）	3・4年生履修案内配布	
	4月 2日（月） 12：30～	成績証明書発行開始	
	2日（月）～7日（土）	ガイダンス	
	6日（金） ～16：30	学事Webシステムパスワード変更締切	
	9日（月）	春学期授業開始	
	10日（火）・11日（水） 8：45～16：45	履修申告用紙配布日	
	13日（金） 10：00～17日（火） 14：00	Webによる履修申告期間	
	17日（火） 8：45～14：00	用紙による履修申告日（2～4学年）	
	19日（木） 9：00～ 〈予定〉	学事Webシステム履修科目確認画面稼働開始	
	23日（月）	開校記念日【休校】	
	27日（金）	授業料等納入期限（全納または春学期分納）	
	5月 初め	履修申告科目確認表送付（本人宛）	
	上・中旬	健康診断	
	7日（月）～	4年生用卒業見込証明書発行	
	7日（月）～9日（水）〈予定〉	履修エラー修正期間（期間は履修申告科目確認表に記載） ◆期間外の修正は受けません◆	
	下旬	早慶野球戦	
	7月 上旬～	春学期末試験時間割発表	
	上旬～下旬	春学期末追加試験申込受付（詳細は後日掲示）	
	10日（火）	春学期土曜代替講義日	
	11日（水）	春学期月曜代替講義日	
	14日（土）	春学期授業終了	
	17日（火）	春学期補講日	
	18日（水）～26日（木）	春学期末試験（詳細は後日掲示）	
	27日（金）～9月21日（金）	夏季休業（8月9日（木）～8月15日（水）三田キャンパス一斉休業）	
	8月 2日（木）・3日（金）	春学期末追加試験（詳細は後日掲示）	
	秋 学 期	9月 22日（土）・25日（火）	秋学期ガイダンス ※文学部のガイダンスはありません
		26日（水）	秋学期授業開始
		10月 31日（水）	授業料等納入期限（秋学期分納）
		下旬	早慶野球戦
		11月 20日（火） 1・2時限	秋学期補講日①
		20日（火） 3時限 ～26日（月）	三田祭（準備、本祭、後片付けを含む）【休講】
		30日（金）	休学願提出期限
12月 23日（日）～1月5日（土）		冬季休業（12月28日（金）～1月6日（日）三田キャンパス一斉休業）	
1月 7日（月）		秋学期授業開始	
上旬		秋学期末試験時間割発表	
上旬～2月上旬		秋学期末追加試験申込受付（詳細は後日掲示）	
10日（木）		福澤先生誕生記念日【休校】	
16日（水）		秋学期土曜代替講義日	
18日（金）		秋学期月曜代替講義日	
21日（月）		秋学期授業終了	
22日（火）		秋学期補講日②	
23日（水）～2月5日（火）		秋学期末試験（詳細は後日掲示）	
2月 3日（日）		福澤先生命日	
上旬～3月下旬		春季休業	
下旬		秋学期末追加試験（詳細は後日掲示）	
3月 10日（月）		卒業生発表	
中旬		学業成績表送付（保証人宛）	
24日（月）		卒業式	

注意事項

- ・代替講義日：土曜代替講義日（7/10（火）、1/16（水））には、実際の曜日にかかわらず、土曜開講の授業が行われます。月曜代替講義日（7/11（水）、1/18（金））には、実際の曜日にかかわらず、月曜開講の授業が行われます。土曜または月曜開講の授業を履修している学生は、それぞれの代替講義日に注意してください（代替講義日には、土曜・月曜以外の曜日の授業は行われません）。
- ・補講日：補講日（7/17（火）、11/20（火）午前、1/22（火））には、実際の授業開講曜日にかかわらず、補講を行うことがあります。補講実施科目については、休講・補講掲示で確認してください（補講日に設定されている火曜日の授業は、補講にならない限り行われません）。また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。
- ・土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間には、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお、ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。随時、掲示およびHPにてお知らせします。 <http://www.gakuj.keio.ac.jp/life/mado/index.html>
- ・諸般の事情により、日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることもありますので、十分注意してください。
- ・共通掲示板、学部掲示板、諸研究所掲示板等に注意してください。
- ・学事関連スケジュール（日吉）および日吉地区設置科目の履修に関する詳細は履修案内（日吉キャンパス）で確認してください。

履修申告の流れ

日付	時間	日 程	場 所
3月30日 (金)	10:00~13:30 14:00~17:00 15:00~	2年生資料配布 3・4年生資料配布 フランス語Ⅱガイダンス	121番教室 121番教室 501番教室
4月2日 (月)	8:45~11:30のみ 13:00~15:00	独・仏・中・西・伊語クラスエントリーシート提出日 2年生原級者(留学・休学を含む)英語プレイスメントテスト	学事センター前受付BOX 501番教室
4月3日 (火)	9:00~ 9:00~ 10:45~12:15 15:00~	独・仏・中・西・伊語クラス発表 2年生原級者(留学・休学を含む)英語プレイスメントテスト結果発表 情報処理教育室設置講座ガイダンス 英語Ⅱガイダンス ※1 英語Ⅱエントリーシート回収	西校舎地下2階掲示板 西校舎地下2階掲示板 516番教室 501番教室 ガイダンス会場にて
4月4日 (水)	—	—	—
4月5日 (木)	10:00~ 10:45~12:15 13:00~ 13:00~14:30 14:45~15:45 14:45~15:45 16:30~18:00	英語Ⅱクラス発表 ※2 国際センター在外研修プログラムガイダンス 文学部基礎情報処理・応用情報処理ガイダンス 文学部基礎情報処理・応用情報処理エントリーシート回収 教職課程ガイダンス(新規登録者対象) 教育実習ガイダンス(2008年度実習予定者対象) 教育実習事前指導Ⅰ(学部4年生の2007年度実習予定者対象) 教職課程ガイダンス(学校教育学コース)(学部3・4年生対象)	西校舎地下2階掲示板 526番教室 517番教室 ガイダンス会場にて 519番教室 528番教室 519番教室 513番教室
4月6日 (金)	9:00~ 9:00~10:30 10:45~12:15 10:45~12:15 11:00~ 12:20~12:50 12:30~14:00 13:00~14:30 15:30~ 18:10~19:10	2編・学士入学者ガイダンス 体育研究所ガイダンス 体育研究所ガイダンス 福澤研究センターガイダンス 文学部基礎情報処理・応用情報処理クラス発表 ※2 言語文化研究所ガイダンス 外国語教育研究センターガイダンス DMCガイダンス 学部専攻別ガイダンス 教育実習ガイダンス(2008年度実習予定者対象)	研究室棟B会議室 522番教室 522番教室 512番教室 西校舎地下2階掲示板 523A番教室 531番教室 131B番教室 文学部掲示板参照 311番教室
4月7日 (土)	—	—	—
4月9日 (月)		授業開始	
4月10日 (火) 11日 (水)	8:45~16:45	履修申告用紙配付日 ◆原則として、Web履修申告を行ってください。どうしてもWeb履修ができない場合のみ履修申告用紙を取りに来てください。◆	学事センター
4月12日 (水)	12:15~13:00	英語質問受付時間	学習相談室(南校舎2階)
4月13日 (金) ~17日 (火)	10:00~ ~14:00まで	Webによる履修申告期間 *午前4時から1時間、保守の為利用不可	
4月17日 (火)	8:45~14:00	用紙による履修申告(2・3・4年生)	学事センター前提出BOX
4月19日 (木)	9:00~(予定)	学事Webシステム履修科目確認画面稼働開始 ◆最終確認は、郵送される履修申告科目確認表で行うこと◆	
5月上旬		履修申告科目確認表送付・履修エラー修正期間 ◆エラー修正期間外の修正は受けません。履修エラーが残っている場合は、進級条件や卒業要件に関わらず全て削除します◆	

※1 最上級レベルを履修する学生は、「英語ガイダンス」で面接を行いますので、必ず出席してください。

※2 抽選の科目(語学・情報処理):クラス発表後に、空きクラスの募集を学事センター窓口で随時行います。抽選発表後、クラスが決まっていない学生や抽選後の空きクラスに応募したい学生は、必ず学事センター窓口にて所定の手続きを取ってください。

履修申告をする場合は、時間割をよく確認しながら登録を行ってください。
登録番号を間違った場合は、履修エラーとなり、その科目は履修申告が出来ない事になります。十分注意してください。

1 学則について

学則とは、学校が制定する諸規程のうち学務に関する事項、入学・退学・卒業、学生の身分に関する取扱い、入学試験、学位、そして教育課程に関する事項について規定したものをいいます。

今年度の文学部は、2004年度（平成16年度）に制定された【04学則】と、2007年度（平成19年度）に制定された【07学則】の2種類の学則が適用されます。【04学則】と【07学則】の適用対象者は、以下のとおりです。

【04学則】：2007年度2・3・4年生在籍者

【07学則】：2007年度1年生在籍者

〈2007年度2年生原級者の学則移行について〉

2007年度2年生の学生で、2007年度末に原級（留学・休学を含む）となり、2008年度も2年生に留まることになった場合は、2008年度より【07学則】に移行することになります。

該当者には、2008年3月中旬の「学業成績表」送付時に個別にご案内をお送りしますが、【04学則】で取得した科目はすべて【07学則】の科目名に読み替えを行い、2008年度からは【07学則】の進級・卒業条件が適用されますので、注意してください。

2 履修案内について

この履修案内は文学部在籍者を対象とするものです。履修にあたっての注意、履修の方法、関連の学部学則（別冊）や内規について書かれています。今年度開講される各科目の内容については『講義要綱』（別冊）を参照してください。

文学部生は、この履修案内をよく読んで、ガイダンスでの説明も参考にしながら自己の責任において慎重に履修してください。毎年履修案内を読まないことによる履修上のトラブルが多く見られます。トラブルの中には、進級や卒業に関わるものが多々あります。理解できない点や不明の点は、必ず専攻担任、学習指導、学事センターに尋ねて、誤りのないように十分注意してください。

また、履修案内の変更、学習指導上の注意事項をはじめとする重要な事項は、必ず文学部掲示板に掲示しますので、掲示には絶えず注意を向けてください。

ガイダンスでの注意に従わなかったこと、履修案内を読まなかったこと、掲示板を見なかったことによるトラブルは、学生諸君の自己責任となることを肝に銘じてください。

3 単位について

(1) 講義科目

週1回半年の授業で2単位、週1回通年の授業で4単位、週2回半年の集中講義で4単位となります。

(2) 語学科目・演習科目

週1回半年の授業で1単位、週1回通年の授業で2単位となります。

(3) 自然科学の実験科目

実験を伴う科目は、講義と実験を週1回半年履修すると3単位、週1回通年履修すると6単位となります。

4 卒業に必要な単位数

卒業するためには次の表に示してあるように合計 128 単位以上を取得し、かつ卒業試験に合格しなければなりません。

卒業必要単位は 128 単位以上で次の科目から構成されます。

科目	単位数	
総合教育科目	38 単位以上	人文科学系列 社会科学系列 自然科学系列 系列外科目
語学科目	14 単位 (14 単位語学専攻) 英語を選択しない場合 16 単位 または 18 単位 (18 単位語学専攻) 英語を選択しない場合 20 単位	※14 単位語学専攻：国文学、中国文学、独文学、 仏文学 18 単位語学専攻：上記 4 専攻以外すべての専攻 (下図参照)
専門教育科目	76 単位以上 (14 単位語学専攻) または 72 単位以上 (18 単位語学専攻)	
合計	128 単位以上	

必修語学の進級条件

1 年	語 種		英語とそれ以外の 1 語種を履修する場合	英語以外の 2 語種を履修する場合			
	英語		4 単位	—			
ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・ロシア語・ スペイン語・イタリア語 日本語 (留学生)		6 単位	6 単位 6 単位				
	小計	10 単位	12 単位				
2 年	語 種 (専攻により異なる)		必修語学		必修語学		
	1 語種	国文学	1 年次履修した 2 語種のうち、いずれか 1 語種	4 単位	—	4 単位	—
		中国文学	中国語				
		独文学	ドイツ語				
		仏文学	フランス語				
	2 語種	哲学系・史学系各専攻、 英米文学専攻、図書館・情報学 専攻、人間関係学系各専攻	1 年次履修した語種と同一の 2 語種 (*)	—	4 単位 4 単位	—	4 単位 4 単位
小計			4 単位	8 単位	4 単位	8 単位	
1 年・2 年 合計			14 単位	18 単位	16 単位	20 単位	

(*) 東洋史学専攻の学生は、1 年次履修した 2 語種のうち、1 語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれか一つに振り替える事ができます。詳細は東洋史学専攻ガイダンスまたは履修案内 (東洋史学専攻) で確認してください。

(注) 2 年生の必修語学履修については、P. 28【専攻における語学履修諸注意】を必ず確認してください。

5 分野と分野番号について

分野とは卒業・進級に必要な科目を学則や専攻内規に基づいて分類したもので、下例のように 6 桁の分野番号 (分野コード) で表されます。

《例 1》 10 - 10 - 11

↓ ↓ ↓

必修 英語 設置地区またはレベル等
語学

《例 2》 30 - 01 - 11

↓ ↓ ↓

専門 哲学 必修
科目 専攻 科目

分野番号の体系は、学則 (07 学則・04 学則) や学年、専攻によって異なります。

6 履修申告について

履修申告は、決まった期間のみ行えます。修正期間を過ぎての追加もしくは修正申告は一切認められませんのでご注意ください。

7 成績評語と成績質問制度について

成績評語は、A、B、C、Dの4段階で示されます。A、B、Cは合格、Dは不合格です。所定の授業へ出席し、試験を受けた後に評語が決まります。

また、教授会が認めた特定の授業科目は、評語をP、Fの2種とし、Pを合格、Fを不合格とします。なお、本塾・他大学で履修した科目の単位を認定した場合はGとします。

- (1) 学業成績表は、3月中旬に保証人に宛て郵送します。
- (2) 学業成績表は、再発行できませんので取り扱いには十分注意してください。
- (3) 留年した場合、前年度に取得した成績評語はA、B、Cとも有効です。ただし、4年次において留年した場合、卒業試験の成績は無効とします。
- (4) 文学部では、成績評語がDないし★（未受験）の場合に限り、成績質問制度を利用することができます。詳細は、P.11～の「試験・レポート・質問制度・卒業論文提出要領」の項を参照してください。

- (5) 学業成績表の見方

評 語 評語 A、B、Cは合格、Dは不合格、Gは認定、★印は未受験

判定欄 進 級次学年に進級する者

保 留追加試験の結果により判定が決定する者

原級(留学)学則による「留学」が認められた者で原級に留まる者

原級(休学)学則による「休学」が認められた者で原級に留まる者

原 級進級条件を充たせず原級に留まる者

1 休学

文学部において、休学は1年間を単位とします。ただし、休学年度の春学期に取得した単位が認められることがあります。詳しくは所属キャンパスの学事センターまでお問い合わせください。

【休学願】

休学する場合は、保証人連署の上、所定の「休学願」に記入し、所属キャンパスの学事センターへ提出してください。病気の場合は、医師の診断書が必要です。また、1年生は学習指導と、2・3・4年生は専攻担任と面接の上、「休学願」に署名・捺印が必要です。詳細は所属キャンパスの学事センターで相談してください。

2007年度休学願提出期限：11月30日（金）

【就学届】

休学期間が終了し再び学業に戻る場合は、所定の「就学届」を所属キャンパスの学事センターへ提出してください。

- (1) 「就学届」用紙は3月中頃保証人宛に郵送します。
- (2) 病気による休学の場合は、別途回復した旨の医師の診断書（休学理由が病気以外の場合、休学解除の理由書）を添付してください。3月初めにあらかじめ診断書をご用意ください。

2 留学

【国外留学申請書】

留学先大学の入学許可を取得し、「留学」を希望する学生は、原則として出発3ヶ月前までに所定の「国外留学申請書」を提出してください。「留学」が許可されるためには、面接（1年生は学習指導、2・3・4年生は専攻担任）の上、学部教授会の承認が必要です。留学希望先大学に正式な手続きを経て、正規生と同じ授業を受ける場合に限り「留学」として許可されます（語学学習のみの留学はこれに該当せず、休学対象になります）。

「留学」中の学業成果は、学部学則第153条により、復学後、取得単位の認定や在学期間の算入手続きののち、教授会において認められることがあります（下記【留学に伴う単位認定】参照）。

詳細は、国際センター発行の「留学の手引き」を参照の上、国際センターおよび所属キャンパスの学事センター窓口へ問い合わせてください。

【就学届】

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、所定の「就学届」を提出してください。

【留学に伴う単位認定】

30単位を超えない範囲で、学部学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は「留学に伴う単位申請書」に成績証明書と講義要綱等を添付して学事センターへ提出してください。

認定手続は以下の通りです。

- (1) 認定される科目は原則として三田文学部設置**専門教育科目**に限ります。
- (2) 所属専攻以外の科目については、以下のとおり内容確認を行った上で、認定処理担当教員欄に承認を受けてください。

<ol style="list-style-type: none"> ①所属専攻設置科目⇒所属専攻専攻担任 ②他専攻設置科目⇒各専攻の専攻担任 ③専攻に属さない文学部設置科目⇒学習指導主任 ④他学部の科目⇒認定不可 	}	所属専攻以外の認定処理が全て完了してから、所属専攻担任が最終確認を行います。
---	---	--

【留学・休学の取り扱いについて】

	留 学	休 学
種類	教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）。留学は「交換留学」・「奨学金による留学」・「私費留学」の3つに区別しています。	・語学研修（その他左記の留学と認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書を添付してください） ・一身上の都合による休学（本人・保証人の理由書を添付してください）
期 間	申請期間 「留学」の開始日から半年以上1年まで。 「留学」は年度途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2007.9.22～2008.9.21	休学は1年単位での申請です（4月1日～翌年3月31日）。 *休学の開始日がいつであっても、その年度は在学期間に算入されません。 *複数年度にわたって休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 *休学願の提出締切はその年度の11月30日です（但し、履修申告をせずに休学する場合は、履修申告期間最終日までに休学願を提出してください）。
	延長 1回可能（最長で留学開始日から2年間まで） それ以降は「休学」となります。 *「留学」を延長する場合は、「国外留学申請書（延長）」を提出してください。	留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、直近の留学申請期間終了日翌日より年度末までとなります。
学費・渡航費	学費減免措置 *1年目：減免制度はありません。 *2年目：減免される場合があります。 「留学」の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6ヵ月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除します（減免額が返金されます。留学許可通知と共に申請書類を保証人宛に送付します）。	*語学研修、その他留学と認定されない場合の減免制度はありません。 *但し、上記以外で特別事情のある者および1年以上の休学者については、別に定めるところにより授業料その他が減免される事があります。詳細は、学生総合センター窓口にて確認してください。
	渡航 「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	なし
単位取得・認定	留学期間をはさむ履修 年度の途中から「留学」する場合は、「留学」前に履修申告をした科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です（但し、同一科目名・同一担当者の三田文学部設置専門教育科目に限る※）。必ず「留学」前に各科目担当者へ「留学」終了後、継続して履修する意志があることを伝えてください。なお、時間割の変更等で継続して履修できない科目が生じた場合は、学事センター窓口申し出てください。 ※総合教育科目・必修語学は、継続履修できませんので、2年生で留学を希望する場合は、充分注意してください。 ※教職課程センター設置科目については、継続が認められる場合があります。教職課程センター窓口にて確認してください。	
	単位認定 30単位を超えない範囲で、学部学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学事センターで所定の用紙を受け取ってください。なお、認定される科目は専門教育科目に限ります（総合教育科目・語学科目等は含まれません）。	休学年度の春学期に取得した単位が認定される場合があります。詳細は学事センター窓口にて問合せください。
就学後	「留学」終了後は、速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。	「休学」終了後は、速やかに就学届を提出してください（病気による休学については、医師による病気が回復した旨の診断書を添えてください）。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。
在学年数	「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は留学前に専攻担任と相談の上、「留学」終了後、必要な書類をそろえて学事センター窓口申し出てください。	「休学」の期間は在学年数に算入されません。
進級・卒業	「留学」終了後の学年の扱いについて ◎2年生で「留学」した場合：「留学」終了後の学年は変わりません。3年生への進級条件科目の一つである「必修語学科目」が単位認定の対象にならないためです。 ◎3・4年生で留学した場合：専攻によって進級条件が異なりますので、専攻内規を確認の上、専攻担任の先生と留学前に必ず相談してください。	「休学」終了後は原級にとどまります。

3 退学

【退学届】

事情により退学する場合は、所定の「退学届」用紙に退学の理由を具体的に明記し、保証人連署、捺印（本人と保証人は異なる印を使用してください）の上、学生証を添付して所属キャンパスの学事センターへ提出してください。1年生は学習指導と、2・3・4年生は専攻担任と面接の上、用紙に署名・捺印が必要です。詳細は所属キャンパスの学事センターに相談してください。

【退学年月日】

- (1) 退学年月日は、学費が全納されている場合、本人の希望日（通常は当該年度の3月31日付）となります。
- (2) 退学年月日が3月31日より前の退学届が提出された場合、当該年度の取得単位が抹消されます。
- (3) 当該年度・学期の学費が未納の場合、学費が納付された年度末もしくは学期末の年月日での退学となります。

【学則第156条抜粋】

- ① 同一学年に2年在学し、なお進級し得ない者ならびに同一学部に8年（医学部では12年）在学し卒業し得ないものは退学させる。
- ② （省略）
- ③ 休学期間は在学年数に算入しない。

【学則第156条適用に関する文学部内規】

● 04学則

在学年数の扱いは次の通りです。

- (1) 第1、2学年については2年間ずつ在籍することができる。
- (2) 第3学年から第4学年への進級条件科目のある専攻は第3・4学年に各々2年間ずつ在籍することができる。
該当専攻：倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学*、西洋史学、民族学考古学*、英米文学、
図書館・情報学、心理学、教育学
- (3) 第3学年から第4学年への進級条件科目のない専攻は第3・4学年に計4年間在籍することができる。
該当専攻：哲学、国文学、中国文学、独文学、仏文学、社会学、人間科学

※ ただし東洋史学専攻および民族学考古学専攻の学生で、2006年度に4年生で原級となり、04学則に移行した者については、3年次には93学則で進級しているため、04学則移行後も、第3・4学年に計4年間在籍することができることとする。

【学則第171条】

授業料その他必要諸経費を所定の期日までに納入しないときは退学させることがある。

【学則第188条抜粋】

この学則若しくは、これに基づいて定められた学内諸規則に違反し、または学業を怠り、気品を害ね、その他学生としての本分にもとる行為のあった者については、懲戒として情状により譴責・減点・停学または退学の処分をする。ただし、懲戒退学は、次の各号の一つに該当する者に対してのみ、これを命ずるものとする。

- 1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 3 正当な理由がなくて出席常でない者
- 4 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 再入学

【学則第155条】

退学したものが再入学しようとする場合には、事情を考慮した上で原級に編入することがある。

※再入学にあたっては、入学考査料および入学金がかかります。「再入学を伴う退学」が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

【学則第155条に関する文学部での取り扱い】

退学年月日は従来通り学費が納入された時期までとする（全納の場合3月31日、春学期までの場合は9月21日）。

- (1) 正当な理由で一時的に修学が困難で、かつ現在の休学制度の適用を受けることができない学生に関して、再入学を認める。
- (2) 再入学の可能性が認められる退学であるかどうかを学習指導および専攻担任（1年生は日吉主任）が面談の上、教授会の承認を得ておくことを条件とする。
- (3) 再入学の願いが出された時点で、再度面談の上、教授会の承認を得て、再入学を認める。
- (4) 以下の場合は、再入学を認めない。
 - ①学則156条、171条、および188条による退学
 - ②留学を理由とする退学
 - ③再入学を認める退学が承認された教授会から1年以内もしくは10年以上経過しての再入学願
- (5) 再入学後の取り扱い
 - ①退学時の原級に復学する
 - ②再入学した時点での学則を適用する
 - ③退学する以前に取得した単位は学則に照らして原則として全て認める
 - ④在籍年数はそのまま加算する
- (6) 施行期日 平成14年4月1日
平成13年度までに既に退学している学生に関しては、この運用内規は適用されない。

※文学部において、退学後再入学を希望する場合には、退学の時点で教授会で検討のうえ、承認が必要となります。具体的な手続きに関しては、学習指導および専攻担任に問い合わせてください。

1 定期試験

春学期末と秋学期末に定期試験があります。

春学期定期試験：7月18日(水)～26日(木) 試験時間割発表：7月上旬予定

秋学期定期試験：1月23日(水)～2月5日(火) 〃 : 1月上旬予定

* 定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項などの詳細は掲示で必ず確認してください。

定期試験・追加試験の Web ページの URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken>

(1) 定期試験に関する注意

- 振鈴 ①定期試験、追加試験の振鈴は、本冊子表表紙にある定期試験振鈴表を参照してください。
②授業時の振鈴とは異なります。また、定期試験の振鈴は日吉キャンパスと三田キャンパスで異なりますので注意してください。
- 試験時間 ③日吉キャンパスの定期試験、追加試験の試験時間は原則として50分です。三田キャンパスは原則として90分です。
異なる科目もありますので、試験時間割の掲示で確認してください。
- 不正行為 ④不正行為のないよう真摯な態度で試験に臨んでください。不正行為は、厳重に処罰されます。
- 遅刻 ⑤試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。ただし、電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。電車遅延等により遅刻をしても試験開始20分以内で入室した場合は追加試験の対象となりません。また、試験時間の延長もありません。
- 退室 ⑥試験開始後20分間および試験終了前10分間は退室を認めません。また、試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。
- 禁止事項 ⑦2時限以降は、前時限の監督者が退室しない限り、試験場へ入室できません。
⑧試験場(教室)を間違えないようにしてください。履修していない科目の試験場へは立ち入らないでください。
⑨答案は必ず提出しなければなりません。未提出の場合、不正行為と判断され、処分の対象とされます。
⑩下敷きの使用は禁止します。
- 学生証 ⑪学生証を必ず携帯し、提示してください。
⑫試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
⑬学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
⑭仮学生証の発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
- その他 ⑮試験時間割発表時に掲示する注意事項、持込み等は、その都度掲示しますので注意してください。

(2) 定期試験時間割重複の取り扱いについて

- ①所属キャンパスの試験時間割が重複した場合、所属キャンパスの学事センターでの手続きが必要です。
a. 時間割確認後すぐに学事センターへ申し出てください。
b. 申し込み期限に遅れると受験できなくなりますので注意してください(申し込み期間は掲示します)。

- c. 受験料は不要です。
- ②他キャンパスの試験と重複した場合には、いずれかの地区の科目を追加試験として申し出てください。
- a. 三田と日吉の試験が重複した場合は、その旨申し出てください。どちらを追加試験とするかは、本人の自由になります。また、矢上、藤沢の各設置科目を追加試験とする場合は、各地区に早急に確認してください。

2 レポート

レポートを学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

- (1) 指定された日時・場所へ提出してください。それ以外は、一切受け付けません。
- (2) 三田では、レポートが定期試験と同様に行われる場合があります。
- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。
- (4) 学事センターへ提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。
- (5) 学事センターレポートボックス受付時間

	受付曜日	時間
三田地区	火・水曜日、木・金曜日	8：45～16：45

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

※授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

	授業・定期試験のある時		授業のない時（夏・冬・春季休業中）	
日吉地区	月～金曜日	8：45～17：00	月～金曜日	8：45～16：30

※授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

3 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目を病気や不慮の事故等、やむを得ない理由で定期試験を受けることのできなかった者に対して行われる試験です。

- ①対象科目は、定期試験期間内に行われる試験科目です。
 - ②語学科目、演習科目、体育実技、その他定期試験期間中に定期試験を行わず、レポート・平常点等により評価の定まる科目、ならびに研究会については追加試験対象外です。
 - ③追加試験を受験する場合は、学事センターで所定の手続きが必要です。手続き方法は試験時間割発表の際、文学部掲示板等で指示します。
- *詳細は掲示、Web（URL：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>）で発表します。

(1) 追加試験注意事項

- ①診断書・遅延証明・事故証明など正式書類のない場合は、学習指導との面接が必要となります。
- ②定期試験期間中、当該科目の試験時間に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験の受験資格がありません。
- ③追加試験申し込みは、試験時間割発表後から受け付けます。科目設置キャンパスの学事センター文学部窓口で行い、「追加試験受験票（学生保存用）」を受け取ってください。
- ④「追加試験受験票（学生保存用）」を持参していないと受験できないことがあります。
- ⑤追加試験の時間割変更、持込みの指示等は追加試験時間割発表時に掲示します。掲示は情報が入り次第、その都度追加しますので気をつけてください。

(2) 受験資格と必要書類と受験料

1. 時間割の重複によるもの 三田と日吉の定期試験の時間重複	受験料不要
2. バス以外の公共交通機関の遅延によるもの 交通機関が発行する試験当日日付の「遅延証明書」	受験料不要
3. 病気・怪我の場合 試験当日の日付を含む医師による「診断書」	受験料1科目2000円
4. 事故を理由とする場合 試験当日日付の「事故証明」	受験料1科目2000円
受験料の支払いは、科目設置キャンパスの学事センターの証紙販売機で証紙を購入し、追加試験申込用紙の「証紙添付欄」に添付してください。	

- ①1.～4.以外の理由によって追加試験の受験を希望する場合、学習指導との面接による受験許可が必要です。
- 「保証人連署の理由書」（本人と保証人の署名および捺印が必要となります）を用意してください（A4サイズ）。
 - 就職活動を理由とする場合は、訪問先の企業名と日付の入った企業が発行した証明書を持参してください。
 - 事前に時間割設置地区の学事センターにて、追加試験申し込み用紙と面接申し込み名簿に理由、連絡先、科目等記入してください。
- ②追加試験申請の面接時に「保証人連署の理由書」と「追加試験申し込み用紙」に学習指導の受験許可印を得てください。
- ③病気・怪我が理由で試験当日日付の「診断書」がない場合、試験当日日付以外の診断書を学習指導との面接に持参してください。

【申込受付・追加試験日程】

キャンパスにより、受付日程、時間など異なりますのでご注意ください。また、受付時間などの変更があった場合、掲示にてお知らせします。

科目設置	追加試験受付	時間割発表	追加試験日程
三田設置科目	7月上旬、1月上旬	8月・1月上旬 三田西校舎掲示板・web	8月上旬 2月下旬
	受付：三田学事センター 月～金曜日：8：45～16：45		
日吉設置科目	7月上旬、1月上旬	8月・1月上旬 日吉第4校舎 J11 番前掲示板・web	8月上旬 2月下旬
	受付：日吉学事センター 月～金曜日：8：45～16：30		

4 再試験

文学部学生に関しては、文学部・他学部・諸研究所いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

5 卒業試験

- 卒業論文は、卒業を左右する重要な試験ですから、提出日・提出場所・提出手続きを厳守してください。この手続きを怠った場合は、卒業に支障が生じることになるので、十分に注意してください（P.12「9 卒業論文提出要領」参照）。
- 卒業試験は原則として卒業論文によって行われますが、英米文学、社会学、人間科学の各専攻はそれ以外の方法によって卒業試験とすることができます。方法は専攻により異なりますので所属専攻の内規を確認し把握しておいてください。
- 第4学年において留年した場合、卒業論文の成績は無効になるので注意してください。その場合、卒業論文は再度提出が必要となります。

6 試験における不正行為の取り扱いについて

【第1条（不正行為の報告）】

本学部学生に関する試験において、不正行為があったときは、監督者は学事センターに報告し、学事センターは学習指導主任にこれを報告しなければならない。学習指導主任は、直ちに学部長に報告しなければならない。

【第2条（処分案作成）】

前条の報告をうけた学部長は、速やかに運営準備会を召集し、不正行為の処分案を作成する。処分案作成に際しては当該学生の事情聴取を原則とする。また、必要に応じて、関係者の出席を求めその意見を徴することができる。

【第3条（処分の決定）】

運営準備会は処分案を運営委員会に提出し、運営委員会は学則第188条により、その処分の決定を行う。

【第4条（処分通知および報告）】

運営委員会が処分を決定したときは、学部長は、直ちに該当学生およびその保証人に処分の内容を通知しなければならない。

7 成績通知

3月中旬に保証人に宛て学業成績表を発送します。春学期終了科目の成績についても、通年科目、秋学期科目とともに学年末に通知します。それ以前には一切通知しません。なお、取得した科目の成績が成績証明書に記載されるのは、翌年度の4月以降となります。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

8 「成績評語に関する質問制度」について

文学部では2002年度より「成績評語に関する質問制度」を施行しています。制度の利用方法等、詳細はクラス担任・専攻担任・学習指導まで問い合わせてください。

(1) 制度対象

- ①文学部所属の学生
- ②成績評語に対して確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者
- ③科目担当教員と連絡が取れない場合、もしくはその対応に納得できない場合
- ④対象学生が履修した文学部設置科目で
 - a. 評語が『D：不合格』もしくは『★：未受験』の場合
 - b. 日吉キャンパス設置科目は「文学部1年生授業時間割」に記載されている科目
- ⑤上記以外については対象外とします。

(2) 手続き方法など

- ①用紙の記入・提出
 - a. 科目設置キャンパスの学事センター備え付けの所定用紙を使用してください。
 - b. 科目が設置されているキャンパスの学事センターに提出してください。
- ②締め切り
2008年3月17日 16:00
- ③事前に用意するもの
 - a. 学生証
 - b. 学業成績表（コピー不可）
 - c. 350円分の切手3セット
- ④その他
条件を満たしている場合のみ科目担当教員へ送付し、回答があった場合には返信します。

(3) その他

この質問制度は、教員に直接質問することを妨げるものではありません。当制度を利用せず、直接教員とコンタクトをとることも認められます。

9 卒業論文提出要領

提出日時、場所：詳細は掲示にてお知らせします。

(1) 注意事項

- ① 論文と一緒に、所定提出用紙（水色）を添えて提出してください（学事センター窓口にて事前配布）。
- ② 提出時には所定提出用紙を配布しません。必ず事前に学事センター窓口で受け取り、記入を済ませてください。
- ③ 提出用紙を論文の表紙に貼ったり、切り離したりせず、論文と一緒に提出してください。
- ④ 論文は散逸しないよう綴じ、外表紙に提出年度、論文題目、大学名、学部名、専攻、学籍番号、氏名を必ず記入してください。また、必ずファイルに綴じるなど、表紙・裏表紙は硬いものにしてください。通常のレポートのような状態では受理できません。
- ⑤ フロッピーのみの提出はできません。また、主論文以外に資料（副論文、写真、フロッピー等）がある場合は、主論文と一緒に一つの封筒に入れ、バラバラにならないようにして提出してください。その際、封筒にも提出年度、論文題目、大学名、学部名、専攻、学籍番号、氏名を必ず明記してください。

(2) 文学部卒業論文の体裁について

- ① 必ずファイルに綴じるか、製本してください。
- ② ファイルの種類は問いませんが、ゼミで指定されている場合は、それに従ってください。
ただし、ホチキス止め、クリップ止め、はさむタイプのバインダー等は不可。
- ③ 論文がバラバラにならないようしっかり綴じてください。
- ④ 綴じ方は、縦でも横でも構いません。

表紙見本

○	2007 年度 卒業論文 論文 題目
○	慶應義塾大学 文学部 専 攻:○○学専攻 学籍番号:1XXXXXXX 氏 名:○○ ○○

○	○	2007 年度 卒業論文 論文 題目
		慶應義塾大学 文学部 専 攻:○○学専攻 学籍番号:1XXXXXXX 氏 名:○○ ○○

(3) 表紙の項目（見本参照）

- ① 2007年度 卒業論文
- ② 論文題目
- ③ 大学名
- ④ 学部名
- ⑤ 専攻
- ⑥ 学籍番号
- ⑦ 氏名

○		論文 題目	2007 年度	卒業論文
○	氏 名	学籍番号	専 攻	慶應義塾大学 文学部
	○○ ○○	XXXXXXX	○○学専攻	

○	○	論文 題目	2007 年度	卒業論文
	氏 名	学籍番号	専 攻	慶應義塾大学 文学部
	○○ ○○	XXXXXXX	○○学専攻	

1 学事センターの窓口

(1) 学事センター事務取扱時間

【三田地区】

月～金曜日 8：45～16：45（休業期間中の11：30～12：30は閉室）

【日吉地区】

① 授業期間中は次の通り取り扱います。

月～金曜日 8：45～17：00

② 休業期間中は次の通り取り扱います。

月～金曜日 8：45～16：30

※土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務室取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

(2) 学事センター窓口業務

- ① 学籍・成績・履修に関すること
- ② 授業・試験・レポート等に関すること
- ③ 時間割に関すること
- ④ 休講・補講に関すること
- ⑤ 追加試験の申込み
- ⑥ 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更等
- ⑦ 学生証の発行
- ⑧ 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（おもに証明書自動発行機）
- ⑨ 司法試験等受験のための単位取得証明書の発行
- ⑩ 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援で行います）
- ⑪ 通学証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援が取り扱います。

2 現住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届、国籍変更

住所や保証人の変更、および改姓名の場合は、速やかに所属するキャンパスの学事センターへ届け出てください。所定用紙は、学事センター窓口で交付します（住居表示・地番変更の場合も届け出なければなりません）。

学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

- 住所変更届：在学カード
- 保証人変更届：保証人変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票
- 改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願
- 国籍変更：戸籍謄本（コピーでも可）、住民票

3 学生証（身分証明書）

- (1) 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾メディアセンター入館証を兼ねています。
- (2) 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際には常に携帯しなければなりません。
- ① 本塾教職員の請求のあった場合
 - ② 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - ③ 各種試験を受験する場合
 - ④ 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
- (3) 通学定期券の発売区間は、「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。住所変更に伴い通学区間が変わった場合は、必ず学事センター窓口にて区間変更手続きを行ってください。なお、通学区間が適正でない場合、通学定期券の発売が停止されます。
- (4) 再交付手続
 学生証または学生証裏面シールを紛失したり、汚損した場合は、所属するキャンパスの学事センターで再交付を受けてください。特に学生証を紛失した場合には、最寄りの警察（交番）に届け出てください。
 必要書類 ①証明書用写真（縦4cm、横3cm）3ヶ月以内に撮影したもので光沢仕上げ（絹目仕上げ不可）
 ②証紙（2,000円分）所属キャンパスの学事センターで販売しているもの
- (5) 返却
 再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業などで学籍をはなれた場合はただちに所属するキャンパスの学事センターへ返却しなければなりません。

4 各種証明書（学割証など）

証明書発行、申込み、受け取りはいずれの場合にも学生証が必要です。授業料等が未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

【各種証明書一覧】

※各種証明書の料金は、改正されることがあります。

証明書種類		日吉	三田	手数料	補記（日程等）
在学証明書	和文	●	●	200円	4月2日 12:30～発行
	英文	●※	●※		
成績証明書	和文	●	●	200円	5月7日～ 学部4年生のみ発行
	英文	●※	●※		
学部卒業見込証明書	和文	●	●	200円	5月7日～ 学部4年生のみ発行
卒業見込証明付成績証明書	和文	●	●	400円	5月7日～ 学部4年生のみ発行
履修科目証明書	和文	●	●	200円	6月1日～発行
	英文	○	○		
健康診断証明書	和文	●	●	200円	6月中旬～年度末まで発行
健康診断書	英文	×	×	—	大学保健管理センターで発行します (詳細は保健管理センターにお問い合わせください)
特殊証明書	司法試験受験用単位取得証明書	○	○	200円	所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	各種資格試験等受験用単位取得証明書	○	○		
	提出先所定の用紙(リクエストフォーム)を要する証明書	○	○		
	科目等履修生・特別聴講生に関する各種証明書	○	○		
その他	学割証（JR 各社共通）	●	●	無料	定期健康診断を未受診の場合には発行できません 学生証で購入できない区間(鉄道会社を3社以上使用する場合)またはバスなど。 所属キャンパス学事センター窓口で申請してください 厳封が必要な場合は、証明書自動発行機で発行できる証明書でも窓口で申請してください
	通学証明書	○	◎		
	厳封を必要とするもの（和文・英文）	○	○		

凡例 ● 自動発行機で即日発行 ◎ 窓口で即日発行 ○ 窓口で数日後発行 × 発行不可

＝注意事項＝

【証明書自動発行機で即日発行する証明書】

<和文>

- ① 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも学籍を失った場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断が未受診の場合には、学割証の発行はできません。
- ② 厳封が必要な場合は、自動発行機で発行できる証明書でも、学事センター窓口で申し出てください。
- ③ 健康診断証明書は6月中旬以降、当該年度の定期診断受診者に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、お早めに保健管理センター三田分室受付に相談してください。

<英文>

※ 2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。それ以前に入学した学生については窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

【学事センター窓口で日数を要して発行する証明書】

特殊証明書等（例：司法試験用単位取得証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、あらかじめ所属するキャンパスの学事センター窓口で相談してください。なお、交付には、申請してから和文証明書は標準3日、英文証明書は標準7日を要しますので、余裕をもって所属するキャンパスの学事センター窓口にお越しください。

【証明書自動発行機稼働時間】

- | | |
|---------------------|---|
| ・日吉キャンパス 第4校舎B棟1階 | 月曜日～金曜日 9:00～20:00 |
| ・三田キャンパス 学事センター事務室内 | 月曜日～金曜日 8:45～16:45
(休業期間中の11:30～12:30は閉室) |
| 南校舎1階 | 月曜日～土曜日 9:00～20:00
(休業期間中の土曜日および休日・大学休業日は除く) |

注1) 自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できます。

注2) メンテナンス、故障等により自動発行機を停止することがありますので、HP・掲示板等で確認してください。

【その他】

- ① 生協の組合員証および国際学生証は、生協事務室に直接お問い合わせください。
- ② 発行日は、【各種証明書一覧】にある日程より遅くなる場合があります。

5 教室使用申請について

三田キャンパス

- (1) 受付窓口（利用者により受付窓口が異なりますのでご注意ください）

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	三田学事センター	三田学生総合センター学生生活支援	管財部管財担当
休業期間	三田学事センター	使用できません	管財部管財担当

- (2) 授業期間中の教室使用申請

- ①研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
- ②学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。
- ③申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます（注）。但し、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
- ④「申請者控」は、研究会は学事センター、学生団体は学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- ⑤外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。
（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

- (3) 休業期間中の教室使用申請

- ①研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当専任教員の印またはサインが必要となります。
- ②学生団体の場合は、原則として使用できません。
- ③申請は使用予定日の3日前まで受け付けます（注）。但し、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
- ④「申請者控」は、学事センターでお受け取りください。
- ⑤外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。
（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

日吉キャンパス

- (1) 受付窓口（利用者により受付窓口が異なりますのでご注意ください）

	利用者		
	研究会（ゼミ）	学生団体	外部団体
授業期間	日吉学事センター総合受付	日吉学生総合センター	日吉運営サービス(用度)
休業期間	日吉学事センター総合受付	使用できません	日吉運営サービス(用度)

- (2) 研究会（ゼミ）の教室使用申請

- ①予約申請は使用予定日の前月20日から受け付けます。
（1月分の受付は12月10日から行います）

- (3) 学生団体の教室使用申請

- ①教室が使用できるのは、公認団体と今年度組織届・団体報告書を提出して受理された未公認団体です。
- ②使用希望日の4日前（土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前）までに手続きをしてください。4日過ぎてからの申請は受け付けできません。
- ③申請は1ヶ月毎となっています。来月分は前月の25日前後となっていますので、その都度、窓口で確認してください。

- (4) 外部団体の教室等使用許可申請

日吉運営サービスセンターまでお問い合わせください（Tel：045-566-1001）。

6 学生総合センター

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

【学生生活支援】

○教室等の使用申込み受付

公認学生団体会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の3日前（土・日・祝日を除く）までに申し込んでください。土・日・祝日・試験期間中の使用はできません。（【教室使用申請について】も参照）

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9：00～20：00

土曜日 9：00～18：00

音楽団体指定時間

月～金曜日 18：10～20：10

土曜日 13：00～18：00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室 A・B と音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

○学生食堂（山食、西校舎学生食堂（生協食堂）、北館学生食堂（ザ・カフェテリア））の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、学生食堂をパーティー等で利用する場合は、学生生活支援担当が予約受付窓口となります。予約後2週間以内に学内集会届を提出し正式申請をしてください。学内集会届が提出されなかった場合、予約が取り消されることがありますので注意してください。食事の内容等については学内集会届提出後、学生食堂に直接相談してください。なお、日曜・祝日は利用できません。

○学外行事届、団体割引の受付

公認学生団体や研究会で、合宿・コンサート・パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前（土・日・祝日を除く）までに学外行事届を提出してください。あわせて団体割引やゴルフ場使用税免除にかかわる証明が必要な場合は申し出てください。なお、届け出があった活動は傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。

○組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続きを行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にお問い合わせください。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、許可を受ける必要があります。

○備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

○郵便物の取り扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生総合センター内のメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○車輛入構申請の受付

塾生の車輛入構は認められていませんが、やむを得ず車輛入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

- 学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジには学生が利用できるパソコンが常設されています。開室時間は8:45~21:00です。室内での飲食はできません。
- 伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として利用できます。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。なお、DENGONに掲示するには、学生総合センター窓口申し出て掲示物受付簿を記入してください。
- 大学生生活懇談会について

学生総合センター「大学生生活懇談会」では、講演会や見学会をはじめスキー企画等さまざまな催物を随時行っています。多くの方のご参加をお待ちしております。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページをご参照ください。
- 遺失物の取り扱い

届けられた遺失物は学生生活支援窓口にて保管しています。
- その他窓口配付・閲覧関係

窓口には、財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。ボランティア募集や公募関係の案内もファイルされていますのでご自由に閲覧してください。
- 奨学金

奨学金窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

 - 慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。
 - 慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。
 - 日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。
 - 地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。
 - 指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。
- 奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。
- 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分の一部について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

 - (1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日

に給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。詳しくは、入学時に配布した「健保の手引き」(学生総合センター窓口にも置いてあります)を参照してください。

【就職・進路支援】

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職・進路支援事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。また、ホームページでは、求人企業一覧や説明会案内なども掲載しています。

3年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどをキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったことなどがあった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

就職・進路支援を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援、就職・進路支援—

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

※都合により閉室することがあります。

—学生相談室—

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

【学生教育研究災害傷害保険について】

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ、指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被

保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

【任意加入の補償制度について】

任意加入の補償制度としては、保険と共済の 2 つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込んでください。

「学生総合補償制度」は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先	(株)慶應学術事業会	TEL 03-3453-6098
	慶應生活協同組合	TEL 045-563-8489

7 定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年 1 回実施しています。学則第 179 条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

8 掲示板

(1) 学生への通達事項は、すべて西校舎正面入口の文学部掲示板、地下1階掲示板および地下2階掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることもあります。

なお、他学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している学部の掲示板を見てください。共通掲示板にも注意してください。

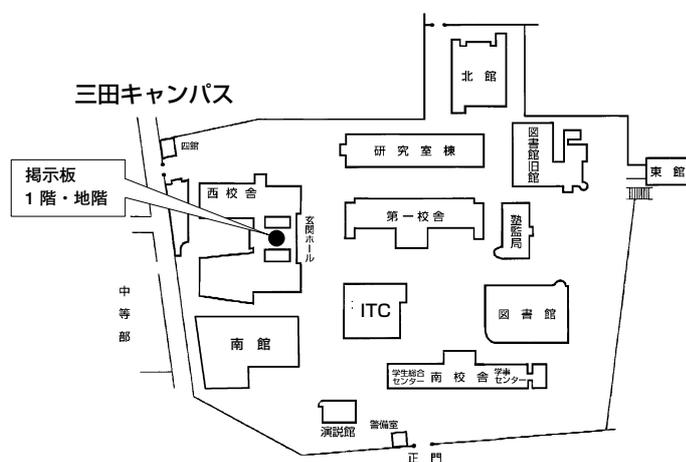
(2) 主な掲示事項

授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急事項、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等。

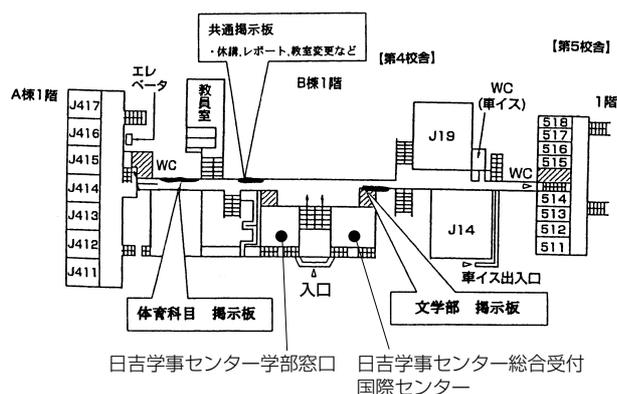
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp>) においても確認できます。

(3) 研究会に関する掲示は、三田校舎 501 番教室前の掲示板を利用してください。

(三田) 西校舎正面入口内の掲示板 (1階と地階)



日吉キャンパス



9 その他

【教員を訪ねる場合】

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

(1) 三田所属専任教員 (教授・准教授・助教)

研究室 (三田研究室棟)

(2) 日吉所属専任教員および塾外からの出講者 (講師)

教員室 (南校舎2階)

※授業期間終了後に塾外からの出講者 (講師) と連絡をとることはできません。学事センターで仲介・連絡等は行いません。

【三田 ITC】

三田キャンパスのパソコン環境を利用するためには、三田 ITC でアカウント申請を行ってください。

1 総合教育科目および語学科目一覧

科目種別	分野番号	設置	授業科目名(単位)	△は三田設置科目(1年生は履修不可)	★★は休講科目	★は言文研設置科目	
必修語学科目	10-10-11	1年	英語 I A (2)	英語 I B (2)**			
	10-10-13	1年	英語 I 上級A (2)	英語 I 上級B (2)**	英語 I 上級C (2)**	英語 I 上級D (2)**	
	10-10-21	2年	英語 II A (2)	英語 II B (2)**			
	10-10-23	2年	英語 II 上級A (2)	英語 II 上級B (2)**	英語 II 上級C (2)**	英語 II 上級D (2)**	
	10-20-11	1年	ドイツ語 I A (2)	ドイツ語 I B (2)	ドイツ語 I C (2)	ドイツ語 I D (2)△	
	10-20-12	1年	ドイツ語 I 中級A (2)	ドイツ語 I 中級B (2)	ドイツ語 I 中級C (2)		
	10-20-13	1年	ドイツ語 I 上級A (2)	ドイツ語 I 上級B (2)	ドイツ語 I 上級C (2)		
	10-20-21	2年	ドイツ語 II A (2)	ドイツ語 II B (2)	ドイツ語 II C (2)	ドイツ語 II D (2)	
			ドイツ語 II F (2)	ドイツ語 II G (2)	ドイツ語 II H (2)	ドイツ語 II I (2)	
			ドイツ語 II K (2)	ドイツ語 II L (2)	ドイツ語 II M (2)	ドイツ語 II J (2)	
	10-30-11	1年	フランス語 I A (2)	フランス語 I B (2)	フランス語 I C (2)	フランス語 I D (2)△	
	10-30-12	1年	フランス語 I 中級A (2)	フランス語 I 中級B (2)	フランス語 I 中級C (2)		
	10-30-21	2年	フランス語 II A (2)	フランス語 II B (2)			
	10-40-11	1年	中国語 I A (2)	中国語 I B (2)	中国語 I C (2)	中国語 I D (2)△	
	10-40-12	1年	中国語 I 中級A (2)	中国語 I 中級B (2)	中国語 I 中級C (2)		
	10-40-21	2年	中国語 II A (2)	中国語 II B (2)			
	10-40-23	2年	中国語 II 上級A (2)	中国語 II 上級B (2)			
	10-50-11	1年	スペイン語 I A (2)	スペイン語 I B (2)	スペイン語 I C (2)	スペイン語 I D (2)△	
	10-50-21	2年	スペイン語 II A (2)	スペイン語 II B (2)	スペイン語 II C (2)	スペイン語 II D (2)	
			スペイン語 II F (2)	スペイン語 II G (2)	スペイン語 II H (2)	スペイン語 II E (2)	
10-60-11	1年	イタリア語 I A (2)	イタリア語 I B (2)	イタリア語 I C (2)	イタリア語 I D (2)△		
10-60-21	2年	イタリア語 II A (2)	イタリア語 II B (2)				
10-70-11	1年	朝鮮語 I A (2)	朝鮮語 I B (2)	朝鮮語 I C (2)	朝鮮語 I D (2)△		
10-70-21	2年	朝鮮語 II A (2)	朝鮮語 II B (2)				
10-80-11	1年	ロシア語 I A (2)	ロシア語 I B (2)	ロシア語 I C (2)	ロシア語 I D (2)△		
10-80-21	2年	ロシア語 II A (2)	ロシア語 II B (2)				
10-90-11	1年	日本語 I A (2)	日本語 I B (2)	日本語 I C (2)			
10-90-21	2年	日本語 II A (2)	日本語 II B (2)				
10-91-21	2年	アラビア語 I (2)	アラビア語 II (2)	ペルシア語 I (2)	ペルシア語初級 I (1)*	ペルシア語初級 II (1)*	
		トルコ語 I (2)	トルコ語 II (2)				
総合教育科目	人文科学系列 8単位以上 ※科目名の前に記された数字は、履修可能学年です。						
	20-10-10	2.3.4 音楽 (4)	2 音楽 I (2)	2 音楽 II (2)	2.3.4 漢文 (4)	2 漢文 I (2)**	2.3.4 漢文 II (2)**
		2 漢文 II (2)**	2.3.4 言語学 (4)	2 言語学 I (2)	2 言語学 II (2)	2.3.4 国語国文 (4)	2.3.4 国語国文 II (2)
		2 国語国文 I (2)	2 国語国文 II (2)	2.3.4 哲学 (4)	2 哲学 I (2)	2 哲学 II (2)	2.3.4 哲学 III (2)
		2.3.4 美術 (4)	2 美術 I (2)	2 美術 II (2)	2.3.4 文学 (4)	2 文学 I (2)	2 文学 II (2)
		2 文学 II (2)	2.3.4 文化人類学 (4)	2 文化人類学 I (2)	2 文化人類学 II (2)	2.3.4 倫理学 (4)	2 倫理学 II (2)
		2 倫理学 I (2)	2 倫理学 II (2)	2.3.4 歴史 (4)	2 歴史 I (2)	2 歴史 II (2)	2 歴史 III (2)
		2.3.4 論理学 (4)	2 論理学 I (2)	2 論理学 II (2)			
	20-10-20	2.3.4 人文科学特論 (4)	2.3.4 人文科学特論 I (2)	2.3.4 人文科学特論 II (2)			
	社会科学系列 8単位以上 ※科目名の前に記された数字は、履修可能学年です。						
	20-20-10	2.3.4 教育学 (4)	2 教育学 I (2)	2 教育学 II (2)	2.3.4 近代思想史 (4)	2 近代思想史 I (2)	2 近代思想史 II (2)
		2 近代思想史 II (2)	2.3.4 経済学 (4)	2 経済学 I (2)	2 経済学 II (2)	2.3.4 社会学 (4)	2 社会学 II (2)
		2 社会学 I (2)	2 社会学 II (2)	2.3.4 政治学 (4)	2 政治学 I (2)	2 政治学 II (2)	2 政治学 III (2)
		2.3.4 地理学 (4)	2 地理学 I (2)	2 地理学 II (2)	2.3.4 法学(憲法を含む) (4)		
		2 法学 I (憲法を含む) (2)	2 法学 II (憲法を含む) (2)				
20-20-20	2.3.4 社会科学特論 (4)	2.3.4 社会科学特論 I (2)	2.3.4 社会科学特論 II (2)				
自然科学系列 8単位以上 ※科目名の前に記された数字は、履修可能学年です。							
20-30-10	2.3.4 基礎化学 (2)	2.3.4 心理学 (4)	2 心理学 I (2)	2 心理学 II (2)	2.3.4 人類学 (4)	2 人類学 II (2)	
	2 人類学 I (2)**	2 人類学 II (2)**	2.3.4 数学 (4)	2 数学 I (2)	2 数学 II (2)	2 数学 III (2)	
	2.3.4 生命科学概論 (2)	2.3.4 生命の科学 (2)	2.3.4 地学 (4)	2 地学 I (2)	2 地学 II (2)	2 地学 III (2)	
	2.3.4 天文学 (4)	2 天文学 I (2)	2 天文学 II (2)	2.3.4 統計学 (4)	2 統計学 I (2)**	2 統計学 II (2)**	
	2 統計学 II (2)**	※ 化学 I (実験を含む) (3)	※ 化学 II (実験を含む) (3)	※ 生物学 I (実験を含む) (3)			
	※ 生物学 II (実験を含む) (3)	※ 物理学 I (実験を含む) (3)	※ 物理学 II (実験を含む) (3)				
20-30-20	2.3.4 自然科学特論 (4)**	2.3.4 自然科学特論 I (2)	2.3.4 自然科学特論 II (2)				
系列外科目 ※科目名の前に記された数字は、履修可能学年です。							
20-40-10	2.3.4 基礎情報処理 (2)	2.3.4 辞書の世界 (2)**	2.3.4 書物の世界 (2)**	2.3.4 総合教育セミナー I (2)			
	2.3.4 総合教育セミナー II (2)	2.3.4 朝鮮文化・文学の歴史 (4)	2.3.4 映画演劇論 I (2)	2.3.4 映画演劇論 II (2)			
	2.3.4 映画演劇論 III (2)	2.3.4 映画演劇論 IV (2)	2.3.4 芸術と文明 (2)	2.3.4 現代芸術 I (2)			
	2.3.4 現代芸術 II (2)	2.3.4 詩学 I (2)	2.3.4 詩学 II (2)	2.3.4 ロシア文学 (4)			
20-40-20	2.3.4 アラビア語 I (2)	2.3.4 アラビア語 II (2)	2.3.4 イタリア語初級A (2)	2.3.4 イタリア語初級B (2)			
	2.3.4 イタリア語初級C (2)	2.3.4 イタリア語中級A (2)	2.3.4 イタリア語中級B (2)	2.3.4 イタリア語上級 (2)			
	2.3.4 イタリア語入門 (2)	2.3.4 英語インテンシブ I A (2)	2.3.4 英語インテンシブ I B (2)	2.3.4 英語インテンシブ II A (2)			
	2.3.4 英語インテンシブ II B (2)	2.3.4 英語インテンシブ III A (2)	2.3.4 英語インテンシブ III B (2)	2.3.4 英語基礎 I (2)**			
	2.3.4 古典ギリシア語初級 (2)	2.3.4 古典ギリシア語中級 (2)	2.3.4 現代ギリシア語初級 (2)	2.3.4 現代ギリシア語中級 (2)			
	2.3.4 スペイン語初級 (2)	2.3.4 スペイン語中級 (2)	2.3.4 中国語初級 (2)	2.3.4 中国語上級 (2)			
	2.3.4 中国語会話A (2)	2.3.4 中国語会話B (2)	2.3.4 朝鮮語既習 (2)	2.3.4 朝鮮語初級 (2)			
	2.3.4 朝鮮語上級 (2)	2.3.4 ドイツ語会話初級 (2)	2.3.4 ドイツ語会話中級 (2)	2.3.4 トルコ語 I (2)			
	2.3.4 トルコ語 II (2)	2.3.4 日本語 II A (2)	2.3.4 日本語 II B (2)	2.3.4 ペルシア語 I (2)			
	2.3.4 ラテン語初級 (2)	2.3.4 ラテン語中級 (2)	2.3.4 ロシア語初級 (2)	2.3.4 ロシア語中級 (2)			
20-40-30	教授会の認める各学部の総合教育相当科目						

38 単位以上 総合教育科目	系列 外科 科目	教授会の認める次の研究所等付属施設の授業科目または講座			
		20-50-10	体育研究所設置講座（講義）	体育学講義（2）	体育学演習（1）
		20-50-11	体育研究所設置講座（実技）	体育実技A（1）	体育実技B（1）
		20-50-20	国際センター日吉設置科目		
		20-50-30	情報処理教育設置講座		
20-50-50以降	その他の研究所等付属施設				
自由 科目	99-99-99	卒業および進級単位にはなりません			

※総合教育科目は、学則により履修できる科目に制限があります。科目名の前に記された数字は、履修可能学年です。十分注意のうえ、履修申告してください。

【表の読み方および注意事項】

- 分野番号については、P.2「分野と分野番号について」を参照してください。
- 例えば、系列科目の「哲学（4）」は、4単位で総合教育科目の人文科学系列の単位ということです。
- 総合教育科目自然科学系列の※がついている実験科目は2・3年生の設置科目です。4年生は次の科目を履修してください。
化学（実験を含む）（6） 生物学（実験を含む）（6） 物理学（実験を含む）（6）
- 時間割に掲載のない科目は開講しておりませんので注意してください。

2 必修語学科目

進級および卒業にあたって必ず履修しなければならない科目です。

- 指定された必修語学を履修し、合格することが3年生への進級条件です。
- クラス指定のある科目は、時間割どおりに履修してください。

1 年	語 種		英語とそれ以外の1語種を履修する場合		英語以外の2語種を履修する場合			
	英語		4単位		—			
ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・ロシア語・スペイン語・イタリア語 日本語（留学生）		6単位		6単位 6単位				
小計		10単位		12単位				
2 年	語 種（専攻により異なる）		必修語学		必修語学			
	1 語 種	国文学	1年次履修した2語種のうち、いずれか1語種	4単位	—	4単位	—	
		中国文学						中国語
		独文学						ドイツ語
		仏文学						フランス語
2 語 種	哲学系・史学系各専攻、英米文学専攻、図書館・情報学専攻、人間関係学系各専攻	1年次履修した語種と同一の2語種（*）	—	4単位 4単位	—	4単位 4単位		
	小計		4単位	8単位	4単位	8単位		
1年・2年 合計			14単位	18単位	16単位	20単位		

（*）東洋史学専攻の学生は、1年生で履修した2語種のうち、1語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれか一つに振り替えることができます。詳細は東洋史学専攻ガイダンスまたは履修案内（東洋史学専攻）で確認してください。

（注）2年生の必修語学履修については、P. 28【専攻における語学履修諸注意】を必ず確認してください。

3 総合教育科目

卒業までに 38 単位以上（内訳として、人文科学系列、社会科学系列、自然科学系列それぞれ 8 単位以上）を取得してください。

- (1) 同一名称科目（同一単位数）が日吉と三田に設置されていますが、講義内容に水準の差はありません。
- (2) 2・3 年生：化学Ⅰ（実験を含む）・化学Ⅱ（実験を含む）、生物学Ⅰ（実験を含む）・生物学Ⅱ（実験を含む）、物理学Ⅰ（実験を含む）・物理学Ⅱ（実験を含む）は、2 時限連続 180 分授業で行われ、半期で 3 単位が取得できます。Ⅰは春学期、Ⅱは秋学期科目です。

4 年生：化学（実験を含む）、生物学（実験を含む）、物理学（実験を含む）は、2 時限連続 180 分授業で行われ、通年で 6 単位が取得できます。

※履修希望者は、希望する時限の第 1 回目の授業時間のガイダンス（前半）に出席してください。詳細は、履修案内（日吉キャンパス 1 年生）をご確認ください。

4 総合教育科目の系列外科目

総合教育科目の系列外科目として以下の科目を含みます。

- (1) 必修として履修しない語学科目（学則第 34 条：分野 10-10-11～10-91-21）
 ※但し、ドイツ語 ID・フランス語 ID・中国語 ID・スペイン語 ID・イタリア語 ID・朝鮮語 ID・ロシア語 ID は系列外科目として履修することはできません。
- (2) 教授会の認める各学部設置の総合教育相当科目
- (3) 教授会の認める次の研究所等附属施設の授業科目または講座
- ①体育研究所（総合教育科目の系列外として履修できるのは合計 4 単位まで）
 - ②国際センター（日吉設置科目・講座）
 - ③情報処理教育室
- (4) 本年度教授会の認める総合教育科目（系列外科目）
- ①三田キャンパス設置科目

ドイツ語初級（2）	愛とセクシュアリティ（4）	人の尊厳（社会と人権）（2）
-----------	---------------	----------------

- ②日吉キャンパス設置科目（履修にあたっての特別な手続・所定用紙は必要ありません）

科学と社会（2 単位、半期）	近代日本と福澤諭吉（2 単位、半期）	経済人類学（4 単位、通年）
ジェンダー論Ⅰ（2 単位、半期）	ジェンダー論Ⅱ（2 単位、半期）	宗教学（4 単位、通年）
宗教学Ⅰ（2 単位、半期）	宗教学Ⅱ（2 単位、半期）	女性学（2 単位、半期）
地域研究－スペイン事情Ⅰ（2 単位、半期）	地域研究－スペイン事情Ⅱ（2 単位、半期）	地域研究－中国事情Ⅰ（2 単位、半期）
地域研究－中国事情Ⅱ（2 単位、半期）	地域研究－中国事情Ⅲ（2 単位、半期）	地域研究－中国事情Ⅳ（2 単位、半期）
地域研究－北米事情Ⅰ（2 単位、半期）	地域研究－北米事情Ⅱ（2 単位、半期）	地域生態文化論（2 単位、半期）
中国事情（2 単位、半期）	21 世紀の実学（2 単位、半期）	比較文化論（4 単位、通年）
表象文化論（4 単位、通年）	民族文化論（2 単位、半期）	

- ③外国語教育研究センター特設科目（日吉・三田）
 履修可能な科目は「文学部時間割表」に掲載されている科目のみとなります。
- ④教養研究センター設置科目（日吉）
- ⑤保健管理センター設置科目（日吉・三田）
- ※③～⑤の科目は、文学部時間割 諸研究所設置時間割表を参照してください。

5 専門教育科目（選択科目としても履修できる科目）

(1) 学則第 35 条に定める文学部設置の専門教育科目

哲 学 系	哲学概論 (4)	西洋哲学倫理学史 I (4)	西洋哲学倫理学史 II (4)	論理学入門 (4)	哲学倫理学原典講読 (4)
	科学の哲学 (4)	中級論理学 (4)	知識の哲学 (4)	形而上学 (4)	現代論理学の諸問題 (4)
	心の哲学 (4)	言語の哲学 (4)	現象学 (4)	宗教の哲学 (4)	哲学原典研究 I (4)
	哲学原典研究 II (4)	哲学原典研究 III (4)	哲学原典研究 IV (4)	哲学倫理学特殊 (4)	哲学研究会 I (2)
	哲学研究会 II (2)	印度哲学 (4)	宗教学 (4)		
	倫理学概論 (4)	西洋哲学倫理学史 I (4)	西洋哲学倫理学史 II (4)	倫理学の基礎 I (2)	倫理学の基礎 II (2)
	倫理学の課題 I (2)	倫理学の課題 II (2)	倫理学の課題 III (2)	倫理学の課題 IV (2)	哲学概論 (4)
	哲学倫理学特殊 (4)	日本倫理思想 (4)	東洋倫理思想 (4)	キリスト教概論 (4)	哲学倫理学原典講読 (4)
	倫理学研究会 I (2)	倫理学研究会 II (2)	倫理学洋書講読 (4)	中国哲学 (4)	
	美学概論 (4)	芸術研究基礎 (2)	芸術学 (2)	美学美術史学原典講読 I (2)	美学美術史学原典講読 II (2)
	美学美術史学演習 (2)	東洋美術史概説 (4)	西洋美術史概説 (4)	西洋音楽史概説 (4)	美学特殊 (4)
	美術史特殊 (4)	音楽史特殊 (4)	美学美術史学研究会 I (2)	美学美術史学研究会 II (2)	
史 学 系	史学概論 (4)	日本史特殊 (4)	日本史概説 I (4)	日本史概説 II (4)	日本史史料講読 (2)
	日本史演習 (2)	日本史研究会 I (2)	日本史研究会 II (2)	古文書学 (4)	日本史洋書講読 (2)
	東洋史研究入門 (2)	東洋史講読 (2)	東洋史概説 I (4)	東洋史概説 II (4)	東洋史概説 III (4)
	東洋史特殊 (4)	史学概論 (4)	東洋史研究会 I (2)	東洋史研究会 II (2)	東洋史演習 (2)
	史学概論 (4)	西洋史学原典講読 (2)	西洋史演習 (2)	西洋史概説 I (4)	西洋史概説 II (4)
	西洋史概説 III (4)	西洋史特殊 (4)	西洋史研究会 I (2)	西洋史研究会 II (2)	
	民族学考古学特殊 (4)	史学概論 (4)	民族学考古学原典講読 (2)	民族学考古学実習 (2)	考古学 (4)
	民族学 (4)	人類学概論 (4)	民族学考古学研究法 (4)	民族学考古学研究会 I (2)	民族学考古学研究会 II (2)
文 学 系	国語学 I (2)	国語学 II (2)	国文学 I (4)	国文学 II (4)	国文学 III (4)
	国文学 IV (4)	国文学 V (4)	国文学 VI (4)	国文学 VII (4)	国文学 VIII (4)
	国文学 IX (4)	国文学 X (4)	国文学 XI (4)	国文学 XII (4)	国文学 XIII (4)
	国文学 XIV (4)	国文学 XV (4)	国文学史 I (2)	国文学史 II (2)	国文学史 III (2)
	国文学史 IV (2)	国文学史 V (2)	国文学史 VI (2)	国文学演習 I (2)	国文学演習 II (2)
	国文学演習 III (2)	国文学演習 IV (2)	国文学演習 V (2)	国文学演習 VI (2)	国語学演習 (2)
	国文学研究会 (2)	国文学原典講読 (2)	日本語文法 (2)	漢文講読 III (2)	日本語学 I (2)
	日本語学 II (2)	日本語教授法 I (2)	日本語教授法 II (2)	仏教学概論 (4)	
	中国語学概論 (4)	中国語学特殊 (4)	中国文学史 I (4)	中国文学史 II (4)	中国文学特殊 (4)
	中国語表現演習 I (2)	中国語表現演習 II (2)	中国語表現演習 III (2)	中国語表現演習 IV (2)	中国文学演習 I (2)
	中国文学演習 II (2)	中国文学演習 III (2)	中国文学演習 IV (2)	中国文学演習 V (2)	中国文学演習 VI (2)
	中国語学研究会 I (1)	中国語学研究会 II (1)	中国古典文学研究会 I (1)	中国古典文学研究会 II (1)	中国現代文学研究会 I (1)
	中国現代文学研究会 II (1)	中国語学研究会 III (1)	中国語学研究会 IV (1)	中国古典文学研究会 III (1)	中国古典文学研究会 IV (1)
	中国現代文学研究会 III (1)	中国現代文学研究会 IV (1)	漢文講読 I (2)	漢文講読 II (2)	中国語会話特殊 I (2)
	中国語会話特殊 II (2)	中国哲学 (4)			
英語史 (4)	英文学史 (4)	米文学史 (4)	現代英語学 (4)	英語英米文学基礎講読 (2)	
古代中世英語学 (4)	英語音声学 (4)	英語学演習 A (2)	英語学演習 B (2)	英語学演習 C (2)	
英語学演習 D (2)	英語学演習 E (2)	英語学演習 F (2)	英語学演習 G (2)	英語学演習 H (2)	
英文学演習 A (2)	英文学演習 B (2)	英文学演習 C (2)	英文学演習 D (2)	英文学演習 E (2)	
英文学演習 F (2)	英文学演習 G (2)	英文学演習 H (2)	英文学演習 I (2)	英文学演習 J (2)	
英文学演習 K (2)	英文学演習 L (2)	米文学演習 A (2)	米文学演習 B (2)	米文学演習 C (2)	
米文学演習 D (2)	米文学演習 E (2)	米文学演習 F (2)	米文学演習 G (2)	米文学演習 H (2)	
米文学演習 I (2)	英語学研究会 I (2)	英語学研究会 II (2)	英語学特別演習 I (2)	英語学特別演習 II (2)	
英文学研究会 I (2)	英文学研究会 II	英文学特別演習 I (2)	英文学特別演習 II (2)	米文学研究会 I (2)	
米文学研究会 II (2)	米文学特別演習 I (2)	米文学特別演習 II (2)			
英語学 A (4)	英語学 B (4)	英語学 C (4)	英語学 D (4)	英語学 E (4)	
英語学 F (4)	英語学 G (4)	英文学 A (4)	英文学 B (4)	英文学 C (4)	
英文学 D (4)	英文学 E (4)	英文学 F (4)	英文学 G (4)	英文学 H (4)	

文 学 系	英文学 I (4)	米文学 A (4)	米文学 B (4)	米文学 C (4)	米文学 D (4)
	米文学 E (4)	米文学 F (4)	アカデミック・ライティング A (2)		
	アカデミック・ライティング B (2)		アカデミック・ライティング C (2)		
	アカデミック・ライティング D (2)		アカデミック・ライティング E (2)		
	テキスト研究中級 (2)	テキスト研究上級 A (2)	テキスト研究上級 B (2)	ドイツ語作文初級 (2)	ドイツ語作文中級 (2)
	コミュニケーション・ドイツ語中級 A (2)	コミュニケーション・ドイツ語中級 B (2)			
	コミュニケーション・ドイツ語上級 A (2)	コミュニケーション・ドイツ語上級 B (2)		ドイツ文法研究 (2)	
	ドイツ文学史 (4)	ドイツ文化史 (4)	ドイツ語学研究 (4)	メディア研究 (4)	ゲーテ時代研究 (4)
	ドイツ文化研究 I (4)	ドイツ文化研究 II (4)	ドイツ文化研究 III (4)	ドイツ文学研究入門 (4)	現代ドイツ研究 (4)
	現代ドイツ研究入門 (4)	ドイツ語学文学ゼミナール I (2)		ドイツ語学文学ゼミナール II (2)	
ドイツ語学文学ゼミナール III (2)	ドイツ語学文学ゼミナール IV (2)	ドイツ語学文学ゼミナール V (2)			
ドイツ語学文学ゼミナール VI (2)	ドイツ語学文学ゼミナール VII (2)	ドイツ語学文学ゼミナール VIII (2)			
フランスの文化と歴史 I (2)	フランスの文化と歴史 II (2)	フランス語学演習 I (1)	フランス語学演習 II (1)	フランス語表現演習 I (1)	
フランス語表現演習 II (1)	フランス語表現演習 III (1)	フランス語表現演習 IV (1)	フランス文学史 I (2)	フランス文学史 II (2)	
フランス文学史 III (2)	フランス文学史 IV (2)	フランス文学と近代 I (2)	フランス文学と近代 II (2)	フランス文学と近代 III (2)	
フランス文学と近代 IV (2)	フランス文学と現代 I (2)	フランス文学と現代 II (2)	フランス語学 I (2)	フランス語学 II (2)	
フランス語学演習 III (1)	フランス語学演習 IV (1)	フランス語学演習 V (1)	フランス語学演習 VI (1)	フランス語学演習 VII (1)	
フランス語学演習 VIII (1)	フランス語表現演習 V (1)	フランス語表現演習 VI (1)	フランス語表現演習 VII (1)	フランス語表現演習 VIII (1)	
フランス文学演習 I (1)	フランス文学演習 II (1)	フランス文学演習 III (1)	フランス文学演習 IV (1)	フランス文学演習 V (1)	
フランス文学演習 VI (1)	フランス語学文学研究会 I (1)	フランス語学文学研究会 II (1)	フランス語学文学研究会 III (1)	フランス語学文学研究会 IV (1)	
図書館・情報学基礎 (2)	図書館・情報学原典講読 (2)	情報サービス基礎 I (2)	情報サービス基礎 II (2)	情報検索基礎 I (2)	
情報検索基礎 II (2)	情報メディア基礎 I (2)	情報メディア基礎 II (2)	図書館・情報学研究法 (2)	図書館・情報学研究会 (2)	
図書館概論 (2)	図書館の計画と経営 (2)	図書館資料論 (2)	図書館活動論 I (2)	図書館活動論 II (2)	
図書館活動論 III (2)	図書館活動論 IV (2)	コミュニケーション史 (2)	資料組織論 (2)	レファレンス・サービス論 (2)	
図書館実習 (2)	情報メディア概説 I (2)	情報メディア概説 II (2)	情報認識の基礎 (2)	情報メディアの構造と分析 I (2)	
情報メディアの構造と分析 II (2)	情報メディア特殊 I (2)	情報メディア特殊 II (2)	情報メディア特殊 III (2)	情報メディア特殊 IV (2)	
情報検索概説 I (2)	情報検索概説 II (2)	情報検索研究 (2)	情報探索行動 (2)	データベース検索 (2)	
情報検索システム (2)	情報処理技術 (2)	自然言語処理の基礎 (2)	画像・映像処理の基礎 (2)	書誌学 I (2)	
書誌学 II (2)	児童資料論 (2)	図書館・情報学特殊 (2)			
社会学概論 (4)	社会心理学概論 (4)	文化人類学概論 (4)	社会学史 (4)	社会調査 I (2)	
社会調査 II (2)	医療社会学 (4)	家族・親族論 (4)	教育社会学 (4)	現代社会学 (4)	
コミュニケーション学 (4)	宗教社会学 (4)	対人影響論 (4)	知識社会学 (4)	都市社会学 (4)	
日本社会学 (4)	比較文化論 (4)	普及学 (4)	文化社会学 (4)	社会学特殊 I (4)	
社会学特殊 II (4)	社会学特殊 III (4)	社会学特殊 IV (4)	社会学特殊 V (4)	社会学特殊 VI (4)	
社会学特殊 VII (4)	社会学特殊 VIII (4)	社会学特殊 IX (4)	社会学特殊 X (4)	社会学特殊 XI (4)	
社会学特殊 XII (4)	社会学特講 I (2)	社会学特講 II (2)	社会学特講 III (2)	社会学特講 IV (2)	
社会学特講 V (2)	社会学特講 VI (2)	社会学特講 VII (2)	社会学研究会 I (2)	社会学研究会 II (2)	
社会学原典講読 (2)	社会学洋書講読 (2)				
知覚心理学 I (4)	発達心理学 I (4)	行動分析学 I (4)	認知心理学 I (4)	生物心理学 I (4)	
心理測定論 (2)	心理学史 (2)	心理統計 (4)	心理学原典講読 (2)	心理学実験 I (2)	
心理学実験 II (2)	心理学研究会 I (2)	心理学研究会 II (2)	心理学特殊 I (4)	心理学特殊 II (2)	
心理学特殊 III (2)	知覚心理学 II (2)	発達心理学 II (2)	行動分析学 II (2)	認知心理学 II (2)	
生物心理学 II (2)	数理心理学 (2)	クリニカルワーク概説 (4)	パーソナリティ理論概説 (4)	認知臨床心理学 (4)	
発達臨床心理学 (4)	言語障害臨床 (4)				
教育学概論 (4)	教育学原典講読 (2)	教育史 (4)	教育学史 (4)	比較教育学 (4)	
教育心理学概論 (4)	教育学演習 I (2)	教育学演習 II (2)	教育学研究会 I (2)	教育学研究会 II (2)	
教育学特殊 I (4)	教育学特殊 II (4)	教育学特殊 III (4)	教育学特殊 IV (4)	教育学特殊 V (4)	
教育学特殊 VI (4)	教育学特殊 VII (4)	教育学特殊 VIII (4)	教育学文献講読 I (4)	教育学文献講読 II (4)	
教育学文献講読 III (4)	教育測定実験 (4)	教育研究法 I (2)	教育研究法 II (2)		
人間科学基礎 (2)	人間科学研究法基礎 (2)	人間科学諸領域 I (2)	人間科学諸領域 II (2)	人間科学諸領域 III (2)	
人間科学諸領域 IV (2)	人間科学研究法 (2)	人間科学研究法 (4)	人間科学演習 (2)	人間科学特殊 (2)	
人間科学特殊 (4)	人間科学卒業研究 (2)	人間科学研究会 I (2)	人間科学研究会 II (2)		

(2) 学則第 35 条に定める文学部設置の全専攻共通科目

全 専 攻 共 通 科 目	教育学概論(学芸員)(2)	生涯学習概論(2)	視聴覚教育メディア論(2)	文化財科学 I(4)	文化財科学 II(4)
	博物館学(4)	博物館学実習 I(3)	博物館学実習 II(3)	博物館学特殊 I(4)	博物館学特殊 II(4)
	博物館学特殊 III(4)	博物館学特殊 IV(4)	漢文講読 I(2)	漢文講読 II(2)	応用情報処理 I(2)
	応用情報処理 II(2)	応用情報処理 III(2)	応用情報処理 IV(2)	応用情報処理 V(2)	応用情報処理 VI(2)
	応用情報処理 VII(2)	情報と職業(2)	情報と倫理 I(2)	情報と倫理 II(2)	言語学概論 I(4)
	言語学概論 II(4)	言語学概論 III(4)	言語学特殊 I(4)	言語学特殊 II(4)	言語学特殊 III(4)
	言語学特殊 IV(4)	言語学特殊 V(4)	言語学特殊 VI(4)	言語学特殊 VII(4)	言語学特殊 VIII(4)
	言語学特殊 IX(4)	中国語会話特殊 I(2)	中国語会話特殊 II(2)	西洋古典学(4)	西洋古典研究会(2)
	古典ギリシア語文献講読 I(2)	古典ギリシア語文献講読 II(2)	現代ギリシア語文献講読 I(2)	ラテン語文献講読 I(2)	ロシア語文献講読(2)
	イタリア文学演習(2)	スペイン語圏文化研究(2)	ライフサイエンス(4)	自然科学研究会 I(2)	自然科学研究会 II(2)
	カウンセリング概論(4)	カウンセリングワークショップ(4)	アート・マネジメント(4)	アート・プロデュース(4)	名著研究 I(2)
	名著研究 II(2)	比較文学 I(2)	比較文学 II(2)	演劇の歴史 I(2)	演劇の歴史 II(2)
	音楽学 I(4)	音楽学 II(4)	英書講読(2)	論文フランス語(初級)(2)	論文フランス語(中級)(2)
比較精神史(4)	環境問題と大学(2)				

(3) 本年度教授会の認める専門教育科目(全専攻共通科目)

①三田キャンパス設置科目

イタリア語文献講読(2) 芸術の現在(4) 文章と表現(4) 古文書の世界(2) ※ 翻訳の世界(2) ※

②福澤研究センター設置科目

※極東証券寄付講座

③アート・センター設置科目

クリエイティブ産業研究 I(2) クリエイティブ産業研究 II(2)

(4) 本大学設置の専門教育科目

①教授会の認める各学部設置の専門教育相当科目

※必ず以下の専門教育相当科目かどうか各学部の履修案内で確認し、授業担当者の口頭による承認を得てください。

- ・経済学部 : 専門教育科目
- ・法学部 : 法律学科目、政治学科目
- ・商学部 : 専攻科目
- ・理工学部 : 専門教育科目
- ・総合政策学部: 専門科目、クラスター科目
- ・環境情報学部: 専門科目、クラスター科目
- ・看護医療学部: 専門科目

②教授会の認める研究所等付属施設の授業科目または講座

言語文化研究所、教職課程センター、斯道文庫、メディア・コミュニケーション研究所、国際センター(三田設置科目・講座)、日本語・日本文化教育センター、知的資産センター設置の授業科目または講座

※教職課程センター設置科目の履修上の注意事項

教職課程センターの指示に従い、教職課程センターで教職課程の登録をすると同時に、**文学部の科目として履修申告を行わなければなりません。**

(5) 文学部教職課程教科に関する科目

書道(4)	法学概論(2)	政治学 I(2)	政治学 II(2)	口語英語(2)
英作文(2)	比較文化論(2)			

6 自由科目

進級および卒業に必要な単位としては計算されません。

- (1) 同一科目を重複して履修する場合は、専攻別内規で許可されている場合を除き、どちらか一方を自由科目の B 欄分野番号【99】を指定のうえ登録してください。
- (2) 教職課程センター設置の「教育実習 I」、「教育実習 II」、「教育実習基礎」、「教職介護等体験」は、自由科目となります。

1 一般的注意事項

【学則について】

学則とは、学校が制定する諸規程のうち学務に関する事項、入学・退学・卒業、学生の身分に関する取扱い、入学試験、学位、そして教育課程に関する事項について規定したものをいいます。

今年度の文学部は、2004年度(平成16年度)に制定された【04学則】と、2007年度(平成19年度)に制定された【07学則】の2種類の学則が適用されます。【04学則】と【07学則】の適用対象者は、以下のとおりです。

【04学則】：2007年度2・3・4年生在籍者

【07学則】：2007年度1年生在籍者

【同一科目の重複履修】

原則として、単位を取得した同一名称の科目を必修科目、選択科目として2度以上履修することはできません。しかし、所属する専攻によっては、専攻別内規に示す範囲で2度以上の履修が認められる場合があります。詳しくは各専攻内規を確認のうえ、各専攻の専攻担任に問い合わせてください。

【分野変更】

一度履修・取得・認定した科目の分野は変更できません。

【留学】

在学中に留学する場合は、留学前および帰国後に、専攻担任および学事センターから履修科目に関するガイダンスを受けてください。(P.4参照)

【専攻変更】

原則として認められません。ただし、真にやむを得ない理由のある場合に限り、教授会の議を経て認められる場合があります。これに関わる問題については、学事センターおよび専攻担任に申し出て指導を受けてください。

2 2年生への注意事項

【2年生から3年生への進級条件】

- (1) 学則に定められた各専攻別必修語学の総単位数を満たすこと。(P.2参照)
- (2) 各専攻で進級条件に定められた専門教育科目を履修し、合格すること。

【専攻における語学履修諸注意】

- (1) 哲学系各専攻、日本史学・西洋史学・民族学考古学専攻、英米文学専攻、図書館・情報学専攻、人間関係学系各専攻
⇒1年次に履修した2語種を各4単位履修してください。
- (2) 東洋史学専攻
⇒1年次に履修した2語種のどちらかに代えて、アラビア語、ペルシア語、トルコ語のいずれかを必修語学の語種として履修することができます。東洋史学専攻内規を熟読し、専攻担任の許可を受けたうえで履修申告してください。
- (3) 国文学専攻
⇒1年次に履修した2語種のうち、いずれか1語種を履修してください。
- (4) 中国文学・独文学・仏文学専攻
⇒1年次に履修した2語種のうち、専攻関連語学(中文：中国語、独文：ドイツ語、仏文：フランス語)を1語種4単位履修してください。
⇒所属専攻の専攻関連語学を1年次に履修しなかった学生は、授業開始に先立って、専攻別ガイダンスで必ず専攻担任に相談してください。

【1年次必修語学科目履修単位不足者】

- (1) 原則として、日吉設置の語学科目は履修できません。
- (2) 各語種については、以下の要領で三田設置の科目を履修してください。

英語：4月3日の「英語ガイダンス」に出席し、指示に従って履修申告してください。

他言語：ドイツ語ID、フランス語ID、中国語ID、スペイン語ID、イタリア語ID、朝鮮語ID、ロシア語IDの中から履修してください。

【他学部設置の専門教育科目】

他学部設置の専門教育科目は、上級学年（3・4年生）設置科目のため、2年生は履修できません。

3 2年生での必修語学の履修方法

2年生で英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語を履修するものは、事前に「エントリーシート」による語学クラス選択申告が必要です。不明な点は、まずこの「履修案内」を熟読してください。決して憶測や風説を元にエントリー手続きを進めないようにしてください。

【英語必修科目の履修について】

第1学年に引き続き、専攻課程で重要となる「読解力」をすでに持つかどうかを基準に、レベル別クラス編成を行います。プレイメントテストの判定結果に基づき、各自の必要と学習目標に即した履修クラスを選択してください。

・履修上の注意

(1) 上級

文学部設置の上級クラス、あるいはそれに併設する外国語教育研究センター設置「英語最上級 アドバンスト英語」から計2コマを履修します。すでに十分な英語力、英語読解力を持つ学生が、英語を使っている様々なコミュニケーション能力を高めることを目的としています。

※「帰国生対象」と「一般学生対象」の区別はありません。

※外国語教育研究センター設置「英語最上級 アドバンスト英語」に併設する「英語Ⅱ上級A」を履修する為には、4月3日の「英語ガイダンス」に出席し、面接の上、履修許可を得ることが必要です。

(2) レベル3

レベル3のクラスから2コマを履修します。主に日本人教員が担当する英語読解トレーニングのクラスと、主にネイティブ・スピーカーが担当するそれ以外のクラスが設置されています。自分の必要に応じて、バランスの取れた英語力を養成することを目標としています。

(3) レベル2

レベル2のクラスから2コマを履修します。いずれのクラスも、専攻で必要とされる英語読解力の養成を主眼としています。

(4) レベル1

対象者は、レベル1のクラスを1コマ「指定」されています。それに加えて、レベル2のクラスから各自1コマを選択し、合計2コマを履修します。

・エントリーシート記入上の注意

※1コマのみエントリーシートによる抽選を受ける場合でも、第8希望まで記入すること。加えて、エントリーシートの特記欄に「1コマのみ」と明記すること。

(1) 上級

①「英語Ⅱ上級A」を2コマ履修する場合→上級のクラスから第8希望まで記入。

②文学部設置「英語Ⅱ上級A」を1コマ、外国語教育研究センター設置「英語最上級 アドバンスト英語」に併設する「英語Ⅱ上級A」を1コマ履修する場合→文学部設置の上級のクラスから第8希望まで記入（エントリーシートの特記欄に「1コマのみ」と明記）。

※②の場合、外国語教育研究センターにて別途「英語最上級 アドバンスト英語」の履修手続きを行ったうえで、文学部設置の「英語Ⅱ上級A」（登録番号：91656）を履修申告すること。

(2) レベル3

レベル3のクラスから第8希望まで記入。

(3) レベル2

レベル2のクラスから第8希望まで記入。

(4) レベル1

レベル1の1コマはクラス指定されているので、記入不要。レベル2のクラスから第8希望まで記入（エントリーシートの特記欄に「1コマのみ」と明記）。

・履修までの手続き

- (1) 4月3日(火)の「レベル分け」発表で各自の判定レベルを確認し、『講義要綱・シラバス』の「英語ⅡA」の中から、上記の注意に従って履修したいクラスを選択する。

レベル分け発表：(掲示) 西校舎地下2階掲示板 4月3日 9:00(予定)

- (2) 「エントリーシート」用紙に

① 学籍番号・氏名などを記入

② 裏面に希望クラスのコード番号をマークする(エントリーコード表参照)

③ 注意：同じクラスを複数回記入した場合、また決められた希望順位まで記入しない場合は、反則と見なされ抽選から除外される。この場合、抽選終了後に、自動的に空きクラスへと割り振られる。

- (3) 記入済みの「エントリーシート」のコピーを取り、手元に控えとして保管する。

- (4) 4月3日(火)の「英語Ⅱガイダンス」終了時に「エントリーシート」を提出する。

- (5) コンピュータ処理による抽選により希望クラス調整が行われ、その結果は、4月5日(木)に発表される。発表されたクラスは必ず履修申告を行うこと。

クラス発表：(掲示) 西校舎地下2階掲示板 4月5日(木) 10:00(予定)

【中国語ⅡA、ⅡB・フランス語ⅡA、ⅡB】

エントリーシート提出：4月2日 8:45~11:30のみ 学事センター前受付BOX

結果発表： 4月3日 9:00~ 西校舎地下2階掲示

科目名	履修	事前エントリー	履修申告
中国語ⅡA (指定クラス)	各1コマ、合計2コマを履修	×	○
中国語ⅡB (選択クラス)		○	○
フランス語ⅡA (指定クラス)	各1コマ、合計2コマを履修	×	○
フランス語ⅡB (選択クラス)		○	○

- (1) 「中国語ⅡA・フランス語ⅡA」(指定クラス)

指定クラスは、自動的にその1つに割り振られます。「平成19年度文学部2年生語学指定クラス表」(別紙)に従って履修してください。特別な事情によって指定クラスの履修が困難な場合は、学事センターに申し出てください。

- (2) 「中国語ⅡB・フランス語ⅡB」(選択クラス)

選択クラスは、「エントリーシート」により事前に学生が選択希望を申告し、必要に応じて抽選により決定します。所属専攻の必修科目・指定専門教育科目など、今年度必ず履修しなければいけない科目と授業時間が重ならないクラスを、各自で選択してエントリーシートを提出してください。

・履修方法

① 講義要綱を熟読のうえ、履修したいクラスを中国語は第3希望以上、フランス語は第6希望以上選んでください。(別紙「必修語学(諸国語)履修要領」エントリーコード参照)

② 「エントリーシート」に学籍番号、氏名を記入し、希望クラスのエントリーコード欄に希望する番号をマークしてください。

注意：指定クラスを選択クラスとして履修することはできません。

希望者数が定員を超えるものについては抽選を行います。決定したクラスの変更は認めません。

但し、特別な事情で変更の必要が生じた場合は、速やかに学事センターに申し出てください。

【ドイツ語Ⅱ、スペイン語Ⅱ、イタリア語Ⅱ】

エントリーシート提出：4月2日 8:45~11:30のみ 学事センター前受付BOX

結果発表： 4月3日 9:00~ 西校舎地下2階掲示

科目名	履修	事前エントリー	履修申告
ドイツ語Ⅱ	2コマ履修	○	○
スペイン語Ⅱ	2コマ履修	○	○
イタリア語Ⅱ	A群、B群より各1コマ履修	○	○

- (1) 各語種とも、曜日と時限を自由に選ぶことができます。

・履修方法

① 講義要綱を熟読のうえ、履修可能な授業全てを選んでください。(別紙「必修語学(諸国語)履修要領」エントリーコード参照)

②「エントリーシート」に学籍番号、氏名を記入し、希望クラスのエントリーコード欄に希望する番号をマークしてください。

注意：2年生で履修しなければならない科目と重ならないよう注意してください。

4 学士入学および2年編入の学生への注意事項

- (1) 学士入学者は、2年生の各専攻指定必修科目などを3年生において併せて履修してください。
 (2) 学士入学者および2年編入者は、一般進学者と条件が異なる場合が多いので、必ず各専攻の担当者から特別ガイダンスを受けてください。

日 時：4月6日(金) 9:00～

集合場所：研究室会議室 B (三田校舎 研究室棟 1階) ※名前を呼ばれるまで待機しててください。

5 学芸員資格の取得について【04学則】

学芸員の資格を取得しようとする場合は、以下の学科目を履修し、ガイダンスに出席して所定の手続きを行ってください。ガイダンスは、4月初めの博物館学実習IA・B・C・Dいずれか(文学部全専攻共通科目)の初回授業で行われます。必ず出席し、登録・申請をしてください。なお、実習費として3,000円が必要になります。

実習費支払締切日：2007年5月31日(木) 学事センター文学部係

※IとIIを履修した場合、それぞれに実習費が必要になります。

※履修申告をした学生は、授業の参加、不参加にかかわらず、必ずお支払いください。

※支払締切日までに支払い手続きのない場合は、6月1日(金)に履修科目を削除します。それによって、卒業に必要な単位が不足する場合や、学芸員資格に必要な科目が不足する場合がありますので、十分ご注意ください。

【学芸員資格取得に必要な科目】()内は単位数を表す。

	授 業 科 目	備 考	時間割設置
必 修 科 目	博物館学 (4)	必修	全専攻共通科目
	博物館学実習 IA (3)	このうち1科目必修	
	博物館学実習 IB (3)		
	博物館学実習 IC (3)		
	博物館学実習 ID (3)		
	博物館学実習 IIA (3)	このうち1科目必修	
	博物館学実習 IIB (3)		
	博物館学特殊 I (資料論・有形) (4)	このうち1科目必修	
	博物館学特殊 II (資料論・展示・普及) (4)		
	博物館学特殊 III (展示・普及) (4)		
	博物館学特殊 IV (企画・運営・教育) (4)		
	文化財科学 I (4)	このうち1科目必修	
	文化財科学 II (4)		
	生涯学習概論 (2) 注①	必修	
視聴覚教育メディア論 (2) 注①	必修		
教育学概論 (学芸員) (2) 注①	必修		
選 択 科 目	民族学 (4)	このうち2科目	民族学考古学専攻
	考古学 (4)		美学美術史学専攻
	東洋美術史概説 A (4) または 東洋美術史概説 B (4) 注②		
	西洋美術史概説 A (4) または 西洋美術史概説 B (4) 注②		
	アート・マネジメント (4)		全専攻共通科目
	アート・プロデュース (4)		

注① 平成8年度までに、社会教育(2) 視聴覚教育(2) 教育原理(4)の各単位を取得した場合は、上記生涯学習概論(2) 視聴覚教育メディア論(2) 教育学概論(2)の各単位を取得したものとみなします。

注② 東洋美術史概説A・B、西洋美術史概説A・Bのうちから同種類2科目を修得しても選択科目の充足とはなりません(なお、東洋美術史概説A(4)は2007年度休講)。

6 よくある質問【2・3・4年生(04学則)】

項目	質問	適用学年	回答
履修	履修申告は何単位までできますか？	2・3・4年生	文学部2・3・4年生には履修単位の上限はありません。
	総合教育科目はどれでも履修申告できる？	2・3・4年生	他学部設置の総合教育科目は履修申告できません。文学部の時間割に掲載されているもののみになります。
	総合教育科目（日吉）の履修制限について	2・3・4年生	履修申告期間中に正しく申告ができた学生に限り、抽選の対象となります。抽選結果発表は、日吉・三田キャンパス掲示板および Web で行います。URL: http://www.hc.keio.ac.jp/gakuji/
	必修語学の履修要領が分かりません。	2年生	履修案内 P.34、必修語学履修要領配布プリントをよく読んでください。
	必修としてではなく、語学を履修したい。	2・3・4年生	「全学部共通外国語科目履修案内」(別冊)に掲載されている科目や、外国語教育研究センター設置科目(独自科目)を履修する事ができます。
	選択科目って？	2・3・4年生	履修案内 P.25～27に掲載されている科目のことを指します。
	他専攻の科目も履修できますか？	2・3・4年生	履修できます。A欄申告で、専門教育科目の選択科目として履修する事ができます。
	他学部の専門科目は履修できますか？	2年生	上級学年設置科目のため、2年生では履修できません。
	他学部の研究会は履修できますか？	2年生	上級学年設置科目のため、2年生では履修できません。
	他学部のゼミで卒論を提出し卒業したい。	3・4年生	文学部所属専攻の要件を満たさないと卒業できません。
	体育科目を履修したい。	2・3・4年生	時間割の該当(体育研究所)ページおよび履修案内を参照の上、必ず体育研究所のガイダンスに出席してください。締切、抽選等がありますので十分注意してください。また、4単位までが卒業単位(総合教育科目(系列外))になります。
	メディア・コミュニケーション研究所の授業がとりたい。	2・3・4年生	入所説明会や手続を経て研究生になった学生以外はオープン科目しか履修できません。詳細は、講義要綱を参照のうえ、メディア・コミュニケーション研究所にご確認ください。
	外国語教育研究センターの科目を履修したい。	2・3・4年生	文学部の時間割に掲載されている科目以外は履修申告できません。外国語教育研究センターのガイダンスに出席し、所定の手続を経た上で履修申告を行ってください。
他専攻の科目の重複履修はできますか？	2・3・4年生	他専攻の科目を選択科目として重複履修することはできません。例えば、美学美術史学専攻以外の学生は、「美術史特殊」を複数履修することはできません。	
資格	学芸員資格について教えてください。	2・3・4年生	履修案内 P.31を参照してください。
	教職に必要な科目を履修した場合は？	2・3・4年生	教職課程センター設置科目は、専門教育科目(選択科目)として履修できます。但し、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教育実習基礎・教職介護等体験は自由科目になります。教員免許取得に必要な科目が、専攻に設置されている場合は、教職と専攻の単位数両方の要件を満たすことになります。但し、履修申告期間に正しく履修申告がなされている場合に限りです。
その他	専攻別学生カードの提出先は？(2・3年のみ)	2・3年生	専攻担任に提出してください。詳細は専攻別ガイダンスで確認してください。
	三田には科目ガイダンス週間がありますか？	2・3・4年生	ありません。9日から授業を開始しますので履修申告する科目は出席してください。
	他学部や、他地区の時間割・講義要綱を閲覧したい。	2・3・4年生	学事センター閲覧コーナー(閲覧のみ)、もしくはメディアセンター 1F 複写カウンター(閲覧、コピー)で可能です。Webでも閲覧する事ができます。
	専攻担任ってなんですか？	2・3・4年生	所属専攻学生全員を取りまとめて受け持つ先生のことです。留学・休学・退学を希望する場合は必ず専攻担任の面接と承認が必要になります。また、所属専攻内の事で相談したいことがある場合はまず専攻担任に相談してください。
	先生の連絡先を教えてください。	2・3・4年生	学事センターでは、先生の個人情報は一切お教えできません。
	授業内やレポートボックス回収で提出できなかったレポートを先生に転送してほしい。	2・3・4年生	学事センターでは、レポートに限らず、担当教員への書類の転送は一切行っていません。
	ゼミに関する情報はどこにありますか？	2・3・4年生	西校舎地下2階の掲示板に掲出しています。

文学部では学則の他に専攻ごとに専攻内規を定めています。各自、所属する専攻の内規を熟読の上、不明な点がある場合は、履修申告の前に、専攻担任に必ず相談してください。

【目次】

哲 学 専 攻	34
倫 理 学 専 攻	36
美学美術史学専攻	38
日 本 史 学 専 攻	40
東 洋 史 学 専 攻	42
西 洋 史 学 専 攻	44
民族学考古学専攻	46
国 文 学 専 攻	48
中 国 文 学 専 攻	50
英 米 文 学 専 攻	52
独 文 学 専 攻	54
仏 文 学 専 攻	56
図書館・情報学専攻	58
社 会 学 専 攻	62
心 理 学 専 攻	64
教 育 学 専 攻	66
人 間 科 学 専 攻	68

【学則第156条適用に関する文学部内規】 <04学則>

在学年数の扱いは次の通りです。

- (1) 第1, 2学年については2年間ずつ在籍することができる。
- (2) 第3学年から第4学年への進級条件科目のある専攻は、第3・4学年各々2年間ずつ在籍することができる。
 該当専攻：倫理学、美学美術史学、日本史学、*東洋史学、西洋史学、*民族学考古学、
 英米文学、図書館・情報学、心理学、教育学
- (3) 第3学年から第4学年への進級条件科目のない専攻は、第3・4学年計4年間在籍することができる。
 該当専攻：哲学、国文学、中国文学、独文学、仏文学、社会学、人間科学

※ただし東洋史学専攻および民族学考古学専攻の学生で、2006年度に4年生で原級となり、04学則に移行した者については、3年次には93学則で進級しているため、04学則移行後も、第3・4学年に計4年間在籍することができることとする。

哲学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	コース	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位	
必修科目	基礎コース	30-01-11	哲学倫理学原典講読 (4) … 2 年進級条件科目	のうち 3 科目 (12)	48 単 位
		30-01-21	哲学概論 (4)		
			西洋哲学倫理学史 I (4)		
			西洋哲学倫理学史 II (4)		
	専門コース	30-01-22	論理学入門 (4)	のうち 5 科目 (20)	
			科学の哲学 (4)		
			中級論理学 (4)		
			知識の哲学 (4)		
			形而上学 (4)		
			現代論理学の諸問題 (4)		
心の哲学 (4)					
言語の哲学 (4)					
現象学 (4)					
宗教の哲学 (4)					
哲学原典研究 I (独) (4)					
哲学原典研究 II (仏) (4)					
哲学原典研究 III (英) (4)					
哲学原典研究 IV (古典) (4)					
研究会	30-01-31	哲学研究会 I (2)	のうち 2 科目 (8)		
		30-01-32		哲学研究会 II (2)	
	30-01-41	卒業試験 (卒業論文)			
選択科目		30-01-55	大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目 選択科目には哲学専攻設置の次の科目も含まれる 印度哲学 (4)・宗教学 (4)	24 単 位 以 上	

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 48 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない (倫理学専攻開講の哲学倫理学原典講読 (英) は卒業に必要な単位に含めない)。

【第 2 学年】

- (1) 進級条件科目
哲学倫理学原典講読 (倫理学専攻開講の哲学倫理学原典講読 (英) は含めない)
- (2) 基礎コースの科目は第 2 学年で履修することが望ましい。

【第 3 学年】

- (1) 第 3 学年ではいずれかの研究会 I を必修科目として履修すること。進級条件科目ではないが、研究会 I を必修として取得していないと、研究会 II は履修できなくなる。
- (2) 研究会 I を同一学年で二つ以上履修する場合は一つを必修とし、他は選択科目として履修申告 (B 欄 55) す

ること。

- (3) 専門コースの科目は第3・4学年で履修することが望ましい。

【第4学年】

- (1) 第4学年ではいずれかの研究会Ⅱを必修科目として履修する（前年度まで必修として履修した研究会Ⅰの単位が取得できていないと、研究会Ⅱを履修することはできない）。なお、同一担当者の研究会を2年継続して履修しなくともよい。
- (2) 研究会Ⅱを同一学年で二つ以上履修する場合は一つを必修科目として履修申告（A欄）し、他は選択科目として履修申告（B欄55）すること。
- (3) 卒業試験は卒業論文とし、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4年生は文学部時間割に記載されている研究会担当教員の「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号）。
- (4) 専門コースの科目は第3・4学年で履修することが望ましい。

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された24単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 単位取得済科目の再履修は、授業科目系列表内の必修科目（倫理学専攻開講のものを含む）に限り、次の場合には何度でも選択科目として認められる（A欄申告）。
- （ア）担当者が異なる場合
- （イ）担当者は同じだが内容が異なる場合（この場合は、履修届提出日前に専攻担任（平成19年度は中川純男、堀江聡）の判断を求め、履修届（WEB履修の場合、画面のプリントアウト）に認定のサインを受けること）
- (2) 1グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目（分野30-01-21・30-01-22・30-01-23）を、指定数を超えて履修（A欄申告）した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (3) 専門コースで「中級論理学」、「現代論理学の諸問題」を履修しようとする者は基礎コースで「論理学入門」を先に履修しておくこと。

倫理学専攻

(平成19年度第2・第3・第4学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】 (* = 半期科目)

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位	
必修科目	必修	30-02-11 倫理学概論 (4) 倫理学の基礎 I (2) * 倫理学の基礎 II (2) *	36 単 位	
		30-02-12 哲学倫理学原典講読 (英) (4) 哲学倫理学原典講読 (独) (4) 哲学倫理学原典講読 (仏) (4) 哲学倫理学原典講読 (露) (4)		のうち4単位
		30-02-13 西洋哲学倫理学史 I (4) 西洋哲学倫理学史 II (4)		
	選択必修	30-02-21 倫理学の課題 I (2) * 倫理学の課題 II (2) * 倫理学の課題 III (2) * 倫理学の課題 IV (2) * 哲学概論 (4) 哲学倫理学特殊 (4)		のうち8単位
		30-02-22 日本倫理思想 (4) 東洋倫理思想 (4) キリスト教概論 (4) 仏教学概論 (4) [国文学専攻設置]		のうち4単位
		研究会		30-02-31 倫理学研究会 I (2) 30-02-32 倫理学研究会 II (2)
	卒試	30-02-41 卒業試験 (卒業論文)		
	選択科目	30-02-55 大学設置 (学部学則第35条3項参照) の専門教育科目 倫理学専攻設置の次の科目を含める 倫理学洋書講読 (4)・中国哲学 (4)		36 単 位 以 上

2 必修科目

必修科目として、授業科目系列表に示された36単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【第2学年】

特別の理由がない限り、倫理学概論、倫理学の基礎 I・II、哲学倫理学原典講読を履修しなければならない。特別の理由がある者は、履修相談日に専攻担任に申し出、許可状の発行を受け、履修申告期間中に学事センターへ提出すること。ただし、進級条件科目ではない。

哲学倫理学原典講読の主目的は、研究会で使用する英語以外の外国語 (ドイツ語・フランス語・ロシア語) の修得であるから、日吉でドイツ語・フランス語・ロシア語を履修した者は同一語種を選択することを原則とし、英語や中国語を選択することはできない。

日吉で中国語を履修した者で中国思想を研究したい者のみ、中国文学専攻設置の中国文学演習 I~IV のうち1科目を履修することができ、単位を取得すれば、当専攻の哲学倫理学原典講読の単位として認定するので、希望

者は必ず履修相談日に来談して、専攻担任から許可状の発行を受けること。

日吉で中国語を履修した者で中国思想を研究しない者および日吉でイタリア語・スペイン語・朝鮮語を履修した者は、ドイツ語・フランス語・ロシア語・英語のうちから、自分が研究したい領域の言語を選択すること。この場合、英語以外は、第3学年で履修することを例外的に認めることがあるので、希望者は必ず履修相談日に来談して、専攻担任から許可状の発行を受けること。

【第3学年】

進級条件科目

倫理学研究会 I

3・4 学年の 2 年間継続して、同一担当者の研究会を必修科目として履修すること。

【第4学年】

(1) 倫理学研究会 II

3・4 学年の 2 年間継続して、同一担当者の研究会を必修科目として履修すること。

(2) 卒業試験は論文とし、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること（研究会とは別の登録番号）。

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された 36 単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 必修科目のなかで、1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目（分野 30-02-21・30-02-22）を指定単位数を超えて履修（A 欄申告）した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (2) 単位取得済科目の再履修は、分野番号 30-02-11 から 30-02-32 までのうち、30-02-12 を除き、次の場合にのみ選択科目として許可する。
 - (ア) 担当者が異なる場合
 - (イ) 担当者は同じだが、内容が前（々）年度と異なる場合（この場合は、履修相談日に専攻担任の判断を求め、許可状の発行を受けること）
- (3) 履修申告の前に、専攻担任による履修相談日を設ける。来談して専攻担任の許可状の発行を受けなければならない者は上記に該当する場合であるが、その他の項の例外に該当する者も来談すること。許可状は、履修申告期間中に学事センターへ提出すること。

美学美術史学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位			
必修科目	30-03-11	芸術研究基礎 (2)	38 単 位			
	30-03-12	美学美術史学原典講読 I (英) (2) 美学美術史学演習 (2)				
	30-03-13	美学美術史学原典講読 II (独・仏・伊・日) (2)				
	30-03-14	美学概論 (4) 芸術学 (2)				
	30-03-21	東洋美術史概説 (4)		} のうち 2 種類以上にわたり 3 科目 (12)		
	30-03-22	西洋美術史概説 (4)				
	30-03-23	西洋音楽史概説 (4)				
	選択必修	30-03-24		美学特殊 (4) 美術史特殊 (4) 音楽史特殊 (4)	} のうち 1 科目 (4)	
		30-03-25		アート・マネジメント (4) [全専攻共通科目]		} のうち 1 科目 (4)
				アート・プロデュース (4) [全専攻共通科目]		
	研究会	30-03-31		美学美術史学研究会 I (2)		
		30-03-32		美学美術史学研究会 II (2)		
卒試	30-03-41	卒業試験 (卒業論文)				
選択科目	30-03-55	大学設置 (学部学則第 35 条3 項参照) の専門教育科目	34 単 位 以 上			

2 必修科目

卒業時まで専門教育科目については上に掲げた授業科目系列表にしたがって、必修科目として 38 単位を取得しなければならない。

【第 2 学年】

- (1) 「芸術研究基礎」, 「美学美術史学原典講読 I」, 「美学美術史学演習」は必ず履修すること。
(ただし進級条件科目ではない。)
- (2) 第 1, 第 2 学年を通じて, 語学科目計 18 単位 (英語を選択していない場合は 20 単位) を取得しないと第 3 学年に進級できない。

【第 3 学年】

- (1) 「美学美術史学研究会 I」は第 4 学年への進級条件科目である。研究会を履修する場合, 学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し, 履修の許可を得なければならない。
- (2) 「芸術学」, 「アート・マネジメント」, 「アート・プロデュース」は本学年で履修することが望ましい。

【第 4 学年】

- (1) 「美学美術史学研究会 II」は卒業条件科目である。研究会を履修する場合, 学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し, 履修の許可を得なければならない。

- (2) 卒業試験は論文試験とし、必修として履修した「美学美術史学研究会 II」の指導教授による「卒業試験（卒業論文）」（研究会とは別の登録番号、文学部時間割に記載されている）を必ず履修し、その指導教授に卒業論文を提出すること。
- (3) 第4学年において留年した者は、「美学美術史学研究会 II」について、たとえ単位を取得していても、再度必ず履修すること。

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された34単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならぬ。

4 共通

- (1) 「芸術研究基礎」の履修は、原則として本専攻の第2学年生のみが可能であり、第2学年次に単位取得できなかった者についてのみ第3学年次以降での履修を認める。
- (2) 「東洋美術史概説」、「西洋美術史概説」、「西洋音楽史概説」の概説科目は、計12単位を必修とするが、その内ひとつの概説科目に限り、担当者の異同を問わず、計8単位までを必修と認める。
- (3) 「美学特殊」、「美術史特殊」、「音楽史特殊」の特殊科目は、その内ひとつの科目4単位を必修とする。
- (4) 全専攻共通科目の「アート・マネジメント」と「アート・プロデュース」については、その内ひとつの科目4単位を本専攻の必修とする。
- (5) 「芸術研究基礎」を除く美学美術史学専攻の授業科目は、必修および選択科目として、担当者の異同を問わず、何度でも履修できる。（他専攻の専門教育科目、全専攻共通科目については、重複して履修することはできない。）
- (6) 同一年度に必修科目として指定単位数を超えて履修した場合、その超過分は選択科目とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (7) 必修科目として履修したものと同名の科目を選択科目として履修する場合も、履修申告用紙のA欄に記入すること。
- (8) 在学中に留学を考えている者は、当該年度の履修申告に際して必ず専攻担任に相談し、留学が決まりしだい学事センターに申し出ること。

日本史学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位
必修科目	30-04-11	日本史史料講読 (A) または (B) (2)	36 単 位
	30-04-12	史学概論 (4) 古文書学 (4)	
	30-04-13	日本史概説 I (4) 日本史概説 II (4)	
	30-04-21	日本史特殊 (各 4) のうち 2 科目 (8)	
	30-04-22	日本史演習 (各 2) のうち 1 科目 (2)	
	30-04-23	東洋史概説 I・II・III (各 4) [東洋史学専攻設置] 西洋史概説 I・II・III (各 4) [西洋史学専攻設置] } のうち 1 科目 (4)	
	研究会	30-04-31 日本史研究会 I (A)～(G) (2) 30-04-32 日本史研究会 II (A)～(G) (2)	
	卒試	30-04-41 卒業試験 (卒業論文)	
選択科目	30-04-51	日本史洋書講読 (2) 日本史演習 (各 2) 日本史概説 I・II (各 4) 日本史特殊 (各 4) 東洋史概説 I・II・III (各 4) [東洋史学専攻設置] 西洋史概説 I・II・III (各 4) [西洋史学専攻設置] 東洋史特殊 (4) [東洋史学専攻設置] 西洋史特殊 (4) [西洋史学専攻設置] 哲学倫理学特殊 (4) [哲学専攻設置] * 考古学 (4) [民族学考古学専攻設置] 民族学 (4) [民族学考古学専攻設置]	36 単 位 以 上
	30-04-55	大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目	

* 専攻担任が指定する科目に限る

2 必修科目

必修科目として、授業科目系列表に示された 11 科目 36 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【第 2 学年進級条件科目】

日本史史料講読

【第 3 学年進級条件科目】 (第 2 学年では履修することができない)

日本史研究会 I (担当者の許可を得たもの)

【第 3 学年指定必修科目】 (第 2 学年では履修することができない)

日本史演習 (担当者の許可を得たもの)

【第4学年指定必修科目】（第2・3学年では履修することができない）

日本史研究会Ⅱ（担当者の許可を得たもの）

【各学年共通】

- (1) 史学概論は、日本史学専攻の登録番号で履修すること。
- (2) 日本史概説Ⅰ・Ⅱを共に卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。
- (3) 東洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，西洋史概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの中から1科目を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。
- (4) 日本史特殊は、卒業までに8単位を履修し、単位を取得しなければならない。
- (5) 卒業試験（卒業論文）について
卒業論文によって行う。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること（日本史研究会Ⅱとは別の登録番号がある）。

3 選択科目

- (1) 授業科目系列表に選択科目として示された科目の中から、卒業までに36単位を履修し、単位を取得しなければならない。
- (2) そのうちの少なくとも12単位については、指定された科目群（分野番号30-04-51）の中から、相異なる科目を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
指定単位数を超えて履修した必修科目は、選択科目（30-04-51または30-04-55）とみなし、卒業単位として取り扱う。したがって、履修申告では、必修単位として挙げられている科目は全てA欄に記入すること。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
日本史学専攻以外の設置科目については、重複履修を認めない。
日本史学専攻の設置科目については、日本史史料講読，日本史研究会Ⅰ・Ⅱを除き必修科目・選択科目ともに、担当者の異同を問わず、同一科目の重複履修を認める。
- (3) 研究会の履修方法
各研究会は指定された学年で履修しなければならない。
各学年で2科目以上履修することはできない。

東洋史学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位	
必修科目	必修	30-05-11 東洋史研究入門 (2)	40 単 位	
		30-05-12 東洋史講読 A~E (2)		
		30-05-13 東洋史概説 I (4)・II (4)・III (4)		
	選択必修	30-05-21 東洋史特殊 A~K (各 4) … のうち 4 科目 (16)		} のうち 1 科目 (4)
		30-05-22 史学概論 (4) [史学系設置科目] 日本史概説 I・II (各 4) [日本史学専攻設置] 西洋史概説 I・II・III (各 4) [西洋史学専攻設置]		
		研究会		
	卒試	30-05-41 卒業試験 (卒業論文)		
選択科目	指定選択	30-05-51 東洋史特殊 A~K (各 4) 東洋史研究会 IA~F (各 2) 東洋史研究会 IIA~F (各 2) } … 合計 12 単位まで	32 単 位 以 上	
		30-05-55 大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目 東洋史学専攻設置の次の科目を含む 東洋史演習 A~C (各 2)		

2 必修科目

必修科目として、別掲の授業科目系列表に示された 12 科目 40 単位を卒業までに履修し、かつ単位取得しなくてはならない。

【第 2 学年進級条件科目】

東洋史研究入門

【第 3 学年進級条件科目】

東洋史講読 A~E のうち 1 科目, 東洋史研究会 IA~F のうち 1 科目

【第 4 学年】

卒業試験は卒業論文によって行う。第 4 学年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること (研究会とは別の登録番号がある)。

【全学年共通】

- (1) 東洋史講読 A~E のうち 1 科目を第 2 学年または第 3 学年において必修科目として履修し、かつ単位取得しなくてはならない。
- (2) 東洋史概説は I・II・III それぞれを履修し、かつ単位取得しなくてはならない。
- (3) 必修の東洋史特殊 4 コマのうち、1 コマは専任教員担当の授業を取るのが望ましい。
- (4) 東洋史特殊 A~K は同一担当者の講義を続けて履修しても内容は毎年異なるので、必修科目および選択科目の単位として加算される。
- (5) 史学概論は東洋史学専攻の【授業科目系列表】に示されている分野番号で登録しなくてはならない。

- (6) 東洋史研究会 I・II は同一担当者の科目を第 3・4 学年においてそれぞれ必修科目の単位として 1 科目ずつ 2 年間連続して履修することを原則とする。同一学年において 2 科目を超えて履修することをさまたげないが、その場合、一つを必修科目として履修し、残りは選択科目 (B 欄 51) としなければならない。第 3・4 学年に連続して同一担当者の東洋史研究会を必修科目として単位取得することが望ましいが、事情により第 3 学年に選択科目として単位取得した東洋史研究会 I と同一担当者の東洋史研究会 II を第 4 学年において必修科目として履修し、その担当者の「卒業試験 (卒業論文)」を履修することもできる。
- (7) 卒業試験 (卒業論文) の履修者のなかで、すでに東洋史研究会 I・II を必修科目として単位取得済みの者 (たとえば第 4 学年で卒業論文を提出しなかった場合) は卒業試験 (卒業論文) 担当者の東洋史研究会 I・II を選択科目または自由科目として履修することが望ましい。
- (8) 第 2 学年において選択必修語学科目のうち 1 語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれかひとつの語種にふりかえることができるが、同一語種を 2 科目 (4 単位) 履修し、単位取得しなければならない。その場合、アラビア語とトルコ語については文学部設置のアラビア語 I とアラビア語 II、またはトルコ語 I とトルコ語 II を履修し、かつ単位取得しなければならない。またペルシア語については、1 科目は文学部設置のペルシア語 I を、もう 1 科目は言語文化研究所特殊講座のペルシア語初級 I・II を履修し、かつ単位取得しなければならない (B 欄 91)。

3 選択科目

- (1) 選択科目は、別掲の授業科目系列表に示された科目のなかから卒業までに 32 単位を履修し、かつ単位取得しなければならない。
- (2) 東洋史演習 A～C、文学部設置のアラビア語、ペルシア語、トルコ語、中国語、朝鮮語、それに言語文化研究所特殊講座のアジア諸言語を選択科目としてできるだけ積極的に履修することが望ましい。

4 各学年共通

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い
- ・必修科目のなかで、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定されている科目について指定単位数を超えて履修し、かつ単位取得した場合は選択科目の単位とみなす (A 欄申告)。
 - ・東洋史特殊 A～K、東洋史研究会 IA～F・IIA～F は必修科目の指定単位数を超えて単位取得した場合、合計 12 単位まで指定選択科目 (分野番号は 30-05-51) として認める。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
- ・東洋史講読 (30-05-12) は、担当者の異同にかかわらず選択科目 (30-05-55) の単位とみなされる (A 欄申告)。
 - ・東洋史概説 I・II・III (30-05-13) は、担当者が異なれば選択科目 (30-05-55) とみなされる (A 欄申告)。
 - ・東洋史特殊 (30-05-21) は、同一担当者の授業を繰り返し履修し、かつ単位取得した場合にも必修科目 (必修科目の必要単位数を超えた場合は指定選択科目 (30-05-51)) として加算される (A 欄申告)。
 - ・東洋史演習 (30-05-55) は、同一担当者の授業を繰り返し履修し、かつ単位取得した場合にも選択科目 (30-05-55) として加算される (A 欄申告)。
- (3) 研究会の履修方法
- 第 2 学年で履修する場合は、選択科目 (30-05-51) として履修申告できる (B 欄 51)。
- 各学年で 2 科目履修する場合、1 つは (30-05-31 または 32)、1 つは (30-05-51) とする (B 欄 51)。ただし、第 3 学年で 2 科目 (4 単位) を取っても卒業要件を満たさない。

西洋史学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位
必修科目	30-06-11	史学概論 (4)	40 単 位
	30-06-12	西洋史学原典講読 (2)	
	30-06-13	西洋史演習 (2)	
	30-06-14	西洋史概説 I (4)・II (4)・III (4)	
	30-06-21	西洋史特殊 A~L (各 4) のうち 2 科目 (8)	
	30-06-22	日本史概説 I (4)・II (4) [日本史学専攻設置] のうち 1 科目 (4)	
	30-06-23	東洋史概説 I (4)・II (4)・III (4) [東洋史学専攻設置] のうち 1 科目 (4)	
	30-06-31	西洋史研究会 I (A)~(G) (2)	
	30-06-32	西洋史研究会 II (A)~(G) (2)	
卒試	30-06-41	卒業試験 (卒業論文)	
選択科目	30-06-55	大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目	32 単 位 以 上

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 12 科目 40 単位を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

【第 2 学年】

(1) 進級条件科目

西洋史学原典講読

第 2 学年の在籍者で、次のいずれかの条件に該当する者は、第 2 学年の初めに専攻担任の別個のガイダンスを受けること。

- ・必修語学として英語を履修していない。
- ・必修語学として独語・仏語・伊語・西語・露語のうちいずれの言語も履修していない。

【第 3 学年】

(1) 進級条件科目

西洋史研究会 I (A)~(G) のうちのいずれか 1 科目

第 3・4 学年において同一担当者の西洋史研究会 I および II を継続して履修することを原則とする。

西洋史演習 (独語・仏語・伊語・西語・露語のいずれか)

【第 4 学年】

(1) 指定必修科目

西洋史研究会 II (A)~(G) のうちのいずれか 1 科目

第 3・4 学年において同一担当者の西洋史研究会 I および II を継続して履修することを原則とする。

- (2) 卒業試験は卒業論文によっておこなう。第 4 学年は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること。

【各学年共通】

- (1) 西洋史概説は I・II・III のそれぞれを履修しなければならない。
- (2) 西洋史特殊 2 科目は、それぞれ別の担当者の科目を必修科目として履修しなければならない。
- (3) 史学概論は西洋史学専攻の【授業科目系列表】に示されている分野番号で登録しなければならない。

3 選択科目

選択科目は、大学および諸研究所・センター設置の専門教育科目（学部学則 35 条 3 項）の中から卒業までに 32 単位以上を履修し、かつ単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 西洋史学原典講読と西洋史演習は、それぞれ 2 単位は必修科目として、それ以上は選択科目として上限を設けずに履修を認める。なお、同一担当者の講義を何度重複履修してもさしつかえない。
- (2) 西洋史特殊 A～L を 2 科目を超えて必修科目として履修し単位を取得した場合、2 科目までは必修科目、3 科目めからは選択科目の単位とみなす。ただし、すでに取得済みの科目と同一担当者による科目を選択科目として履修することはできない（同一科目名でも担当者が異なる場合は選択科目として履修できる）。
- (3) 日本史概説 I・II と東洋史概説 I・II・III を、それぞれ必修科目として指定されている 4 単位を超えて履修し単位を取得した場合は、選択科目とみなす。ただし、同一のローマ数字の科目を選択科目として重複履修することはできない。
- (4) 史学概論、西洋史概説 I・II・III、西洋史研究会 I・II の重複履修は選択科目として認めない。
- (5) 西洋史研究会 I・II は第 2 学年で履修することはできない。また同一学年で 2 科目以上履修することはできない。

民族学考古学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位		
必修科目	必修	30-07-11 民族学考古学原典講読 (2)	40 単 位		
		30-07-12 史学概論 (4)			
		30-07-13 民族学考古学実習 (2)			
	選択必修	30-07-21 民族学考古学特殊 A～K (各 4) のうち 2 科目 (8)		いずれか 3 科目 (12)	
		30-07-22 考古学 (4) 民族学 (4) 人類学概論 (4) 民族学考古学研究法 (4)			
		30-07-23 日本史概説 I (4)・II (4) [日本史学専攻設置]			日本史概説・東洋史概説・西洋史概説の 三つの系列のうちから二つの系列にわたっ て 2 科目 (8) を必修として履修すること。
		30-07-24 東洋史概説 I (4)・II (4)・III (4) [東洋史学専攻設置]			
		30-07-25 西洋史概説 I (4)・II (4)・III (4) [西洋史学専攻設置]			
		研究会		30-07-31 民族学考古学研究会 I (A)～(E) (2)	
				30-07-32 民族学考古学研究会 II (A)～(E) (2)	
卒試	30-07-41 卒業試験 (卒業論文)				
選択科目	30-07-55	大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目	32 単 位 以 上		

2 必修科目

卒業試験は卒業論文によって行う。4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること。(研究会とは別の登録番号があります。)

【第 2 学年進級条件科目】

民族学考古学原典講読

【第 3 学年進級条件科目】

民族学考古学研究会 I

【第 4 学年卒業条件科目】

民族学考古学研究会 II, 卒業試験 (卒業論文)

【各学年共通】

- (1) 民族学考古学実習は 2 年生で履修するのが望ましい。
- (2) 民族学考古学研究会 I・II
民族学考古学研究会 I (A)～(E) は第 3 学年において履修し, II (A)～(E) は第 4 学年 (卒論指導) において履修する。したがって, 第 3 学年において民族学考古学研究会 I (A)～(E) のいずれかの単位を取得しない場合は, 第 4 学年に進級できない。

- (3) 民族学考古学特殊 A~K (分野 30-07-21) は 2 科目 8 単位を必修とする。また、民族学考古学専攻の学生については、同一担当者でも選択科目としての再履修を認める。
- (4) 卒業試験は卒業論文によって行う。第 4 学年は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること (研究会とは別の登録番号がある)。

3 選択科目

選択科目として、卒業までに 32 単位を履修し、かつ単位取得しなければならない。

4 各学年共通

- (1) 重複履修の取り扱いについて
担当者の異同に関わらず、全ての民族学考古学専攻設置科目に限り、重複履修を認める。
- (2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
必修科目のなかで、1 グループから一定数の科目を履修するように指定のある科目 (分野 30-07-21・30-07-22・30-07-23・30-07-24・30-07-25) を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。
- (3) 研究会の履修方法
第 3 学年、第 4 学年で履修することをすすめるが、第 2 学年で履修することも可能。その場合は選択科目 (分野 30-07-55) の単位とみなし、卒業単位として取り扱う (B 欄 55)。第 3 学年、第 4 学年で 2 科目以上研究会を履修する場合、1 科目を必修 (A 欄)、2 科目めを選択科目 (B 欄 55) とする。

国文学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位	
必修 科目	30-08-11	国文学原典講読 (2)	34 単 位	
	30-08-12	国語学 I (2) ・国語学 II (2)		
	30-08-21	国文学 I～XV (各 4) のうち 2 科目 (8)		
	30-08-22	国文学史 I～VI (各 2) のうち 4 科目 (8)		
	30-08-23	国文学演習 I～VI (各 2) 国語学演習 (2)		のうち 4 科目 (8)
	研究会	30-08-31		国文学研究会 (2)
卒試	30-08-41	卒業試験 (卒業論文)		
選択 科目	30-08-51	国語学 I (2) ・国語学 II (2) 国文学 I～XV (各 4) 国文学史 I～VI (各 2) 日本語文法 (2) 漢文講読 III (2) 国語学演習 (2) 国文学演習 I～VI (各 2)	42 単 位 以 上	
		30-08-55		本大学設置の専門教育科目 (学部学則第 35 条 3 項 参照) 国文学専攻設置の次の科目を含む 日本語学 I (2) ・日本語学 II (2) 日本語教授法 I (2) ・日本語教授法 II (2) 仏教学概論 (4)

2 必修科目の履修について

【第 2 学年進級条件科目】

第 2 学年において、「国文学原典講読 (A)～(D)」のうち、1 科目を修得しなければならない。そのクラス分けは、新学期に発表する。

【第 3・4 学年指定科目】

選択必修科目としての「国文学演習 I～VI」「国語学演習」(各 2 単位) は、第 3 学年、第 4 学年において異なる 4 科目を履修すること。

【卒業試験】

卒業試験は卒業論文によって行うので、4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること (研究会とは別の登録番号がある)。

3 選択科目の履修について

卒業に必要な 42 単位の選択科目には、国語学 I・国語学 II・国文学 I～XV・国文学史 I～VI・日本語文法・漢文講読 III・国語学演習・国文学演習 I～VIの中から必修科目として履修しない12単位を指定選択科目として、履修しなければならない。

ただし、履修申告の際には、必修科目と指定選択科目を区別せず、すべてを必修科目としてA欄申告すること (必修科目としての単位数を超えた段階で、以降の科目が自動的に指定選択科目として処理されるため)。

4 各学年共通

(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱いについて

「国文学 I～XV」, 「国文学史 I～VI」, 「国文学演習 I～VI」・「国語学演習」, 「日本語文法」・「漢文講読 III」に関しては、それぞれ必修科目としての単位数を超えて履修した単位は、自動的に選択科目の単位となる(履修申告は必修科目としてA欄申告すること。ただし重複履修の場合は4-(2)を参照)。

(2) 必修科目の重複履修の取り扱いについて

すでに履修した必修科目を重複履修する際は、以下の点に注意すること。特に、選択科目として履修できる単位数の制限と、履修申告の際の申告欄に注意すること。

ア ①「国文学 I～XV」, ②「国文学史 I～VI」, ③「国文学演習 I～VI」・「国語学演習」, ④「日本語文法」・「漢文講読 III」

<担当者が異なる場合>

担当者が異なる場合は、同じ科目でも別科目とみなし、再履修・再々履修は共に必修科目として履修できる(A欄申告)。

<担当者が同じ場合>

同一担当者の科目の場合は、再履修は選択科目(B欄51)となり、再々履修は自由科目(B欄99)となる。

なお、同一担当者の科目を再履修する場合、①～③の科目群においては、それぞれの科目群につき合計8単位まで、④の科目群においては2単位までは選択科目として履修できるが、それ以降は自由科目となる。

イ 「国語学 I」, 「国語学 II」

担当者の異同に関わらず、再履修は選択科目(B欄51)となり、再々履修は自由科目(B欄99)となる。

(3) 研究会の履修方法

国文学研究会は (I) 藤原・(II) 川村・(III) 佐藤・(IV) 岩松・(V) 石川・(VI) 休講・(VII) 松村担当のいずれか一つを第4学年で履修する。これは卒業論文指導であるから、論文のテーマ等を考え、指導を受けようとする教員の研究会を選ぶこと。なお、第2学年と第3学年では国文学研究会は履修できない。また、第4学年で2つ以上の研究会を履修することはできない。

中国文学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位
必修科目	30-09-11	中国文学史 I (4)	38 単 位
		中国文学史 II (4)	
	中国語学概論 (4)		
	30-09-12	中国文学特殊 (4)	
		中国語学特殊 (4)	
中国語表現演習 I (2)			
選択必修	30-09-21	中国語表現演習 II (2)	
		中国語表現演習 III (2)	
研究会	30-09-31	中国語表現演習 IV (2)	
		中国文学演習 I~VI (2) のうち 4 科目 (8)	
		中国語学研究会 I (1)	同一の研究会 I・II の 2 科目 (2) を第 3 学年 で履修。
		中国語学研究会 II (1)	
中国古典文学研究会 I (A)(B)(C) (1)			
中国古典文学研究会 II (A)(B)(C) (1)			
卒試	30-09-41	中国現代文学研究会 I (A)(B) (1)	
		中国現代文学研究会 II (A)(B) (1)	
		卒業試験 (卒業論文)	
		卒試	
選択科目	30-09-32	中国語学研究会 III (1)	38 単 位 以 上
		中国語学研究会 IV (1)	
		中国古典文学研究会 III (A)(B)(C) (1)	
		中国古典文学研究会 IV (A)(B)(C) (1)	
	研究会	30-09-51	
中国現代文学研究会 IV (A)(B) (1)			
指定選択	30-09-51	必修科目として履修しない中国文学演習 I~VI (各 2)	のうち 12 単位以上を 含めなければならない。
		中国語会話特殊 I・II (各 2) [全専攻共通科目]	
		漢文講読 I・II (各 2) [全専攻共通科目]	
		中国哲学 (4) [倫理学専攻設置]	
選択	30-09-55	東洋史概説 I~III (各 4) [東洋史学専攻設置]	
		大学設置 (学部学則第 35 条 3 頁参照) の専門教育科目	

2 必修科目

【2年進級条件科目】

「中国文学史 I」, 「中国文学史 II」, 「中国語学概論」は, 進級条件科目として第 2 学年で必ず履修し, 単位を取得すること。

【2年指定科目】

「中国文学演習 I」, 「中国文学演習 II」, 「中国語表現演習 I」, 「中国語表現演習 II」は, 第 2 学年で履修することが望ましい。

【3・4年指定科目】

第3・4学年指定科目は、第3学年または第4学年のいずれかで履修してもよい。

「中国文学特殊」, 「中国語学特殊」, 「中国語表現演習 III~IV」, 「中国文学演習 III~VI」

「中国語学研究会 I~IV」

「中国古典文学研究会 I (A) ~I (C) ・II (A) ~II (C) ・III (A) ~III (C) ・IV (A) ~ (C)」

「中国現代文学研究会 I (A) ~I (B) ・II (A) ~II (B) ・III (A) ~III (B) ・IV (A) ~ (B)」

【卒業論文】

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること。

3 選択科目

指定選択科目の中には、下記(1)~(6)の科目のうちから12単位以上を含めること。

- (1) 「中国語学研究会 III・IV」, 「中国古典文学研究会 III・IV」, 「中国現代文学研究会 III・IV」(各1)
- (2) 必修科目として履修しない「中国文学演習 I~VI」(各2)
- (3) 「中国語会話特殊 I・II」(各2)
- (4) 「漢文講読 I・II」(各2)
- (5) 「中国哲学」(4)
- (6) 「東洋史概説 I・II・III」(各4)

4 各学年共通

- (1) 重複履修の取り扱いについて

第3学年ですでに単位を取得した中国文学専攻設置の必修科目・選択科目を第4学年で再履修する場合は、科目担当者が異なる場合、8単位まで選択科目として認める。この際、専攻担任の承認が必要である。

- (2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

「中国文学演習 I~VI」は、計6科目のうち4科目を必修科目として履修する。それ以上さらに履修する場合は、選択科目として履修することができる(A欄申告)。

- (3) 研究会の履修方法

研究会は、第3・4学年と続けて、I・II・III・IVの順に履修することが望ましい。I・IIIは春学期科目、II・IVは秋学期科目であるが、原則としてIとII、IIIとIVをそれぞれ同一学年で続けて履修し、履修申告はいずれも4月に行う。学則上、IとIIは必修科目、IIIとIVは選択科目であるが、IIIとIVは卒業論文指導を主体とする必修に準ずる科目であるので履修することが望ましい。履修しない場合は、必ず専攻担任に申し出ること。

また、第3学年で研究会I・IIが不合格だった場合は、第4学年で再度履修し単位を取得しなければ卒業できない。

英米文学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位				
必修 科目	30-10-11	英語史 (4) 英文学史 (4) 米文学史 (4) 現代英語学 (4) 英語英米文学基礎講読 (A)～(G) (2) … 2 年指定必修	40 単 位				
		30-10-12		古代中世英語学 (4) … 3 年指定必修 英語音声学 (4)			
	30-10-21	英語学演習 A～H (各 2) 英文学演習 A～K (各 2) 米文学演習 A～H (各 2) } のうち 5 科目 (10)					
	30-10-31	英語学研究会 I (2) ・ 英語学研究会 II (2) 英文学研究会 I (2) ・ 英文学研究会 II (2) 米文学研究会 I (2) ・ 米文学研究会 II (2)		} のうち同分野 2 科目 (4)			
		30-10-32			英語学特別演習 I (2) ※ ・ 英語学特別演習 II (2) 英文学特別演習 I (2) ※ ・ 英文学特別演習 II (2) 米文学特別演習 I (2) ※ ・ 米文学特別演習 II (2)		
					30-10-41	卒業試験 (卒業論文)	研究会履修者
						30-10-42	卒業試験 (卒業試験)
	選択科目	30-10-51		英米文学専攻設置の以下の科目を含める 英語学 A～G (各 4) ・ 英文学 A～H (各 4) 米文学 A～F (各 4) ・ アカデミック・ライティング A～E (各 2)	32 単 位 以 上		
		30-10-55		大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目			

※ 2007 年度開講せず

2 必修科目

【第 2 学年進級条件科目】

必修科目の「英語史」, 「英文学史」, 「米文学史」, 「現代英語学」, 「英語英米文学基礎講読」のうち 3 科目以上。このうち, 「英語英米文学基礎講読」は第 2 学年で取得することが望ましい。しかし, 第 2 学年において, 「英語英米文学基礎講読」が不合格となっても, 上記の 5 科目中 3 科目に合格していれば, 進級条件を満たすことになる。

【第 3 学年進級条件科目】

「研究会 I」

【卒業試験】

「研究会 II」を履修している 4 年生は「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修し, 「特別演習 II」を履修している 4 年生は「卒業試験 (卒業試験)」を必ず履修すること。「卒業試験 (卒業論文)」と「卒業試験 (卒業試験)」は, 「研究会」と「特別演習」とは別の登録番号があるので注意されたい。第 4 学年で留年した場合, 前年度すでに「卒業試験 (卒業論文)」または「卒業試験 (卒業試験)」に合格していても, 再度履修する必要がある。(ただし, 既に取得した「研究会 II」あるいは「特別演習 II」の単位は有効)

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された32単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

選択必修科目である「英語学演習 A～H」, 「英文学演習 A～K」, 「米文学演習 A～H」(分野 30-10-21) の3科目のみ、指定単位数(10単位)を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

(2) 重複履修の取り扱いについて

選択必修科目である「英語学演習 A～H」, 「英文学演習 A～K」, 「米文学演習 A～H」(分野 30-10-21) の3科目のみ、同一担当者の同一科目の再履修が認められる。その場合、一度目は必修科目として、二度目は選択科目として認められるが、三度目以降は自由科目となる。

また、英米文学専攻設置の選択科目の「英語学 A～G」, 「英文学 A～H」, 「米文学 A～F」, 「アカデミック・ライティング A～E」は、たとえ同一のアルファベットであっても担当者が異なれば別科目と認める。なお、同一担当者による同一科目履修は自由科目として履修すること。

(3) 「研究会」・「特別演習」の履修方法

第3・4学年の2年間にわたって、同一担当者の「研究会」あるいは「特別演習」を履修する。第3学年においては、「研究会 I」を、第4学年においては「研究会 II」あるいは「特別演習 II」を履修すること。

「研究会」から「特別演習」へのコース変更は担当教員および専攻担任の面接・許可を受け、学事センターに文章にて申し出た場合のみ可能である。但し、「研究会」および「特別演習」を同一学年で2科目以上履修したり第2学年で履修することはできない。

5 その他

(1) 第2学年での履修上の注意

第3学年においてどの「研究会」を選ぶかは、第2学年中に行われるガイダンスに出席して各自の希望で決め、志望票を提出すること。ただし、指導教授の選抜・承認が必要である。なお、定められた期日までに志望票の提出が無い場合は、第3学年で「研究会」を履修することはできない。

(2) 各学年共通の履修上の注意

「英語学演習 A～H」, 「英文学演習 A～K」, 「米文学演習 A～H」は、原則として英米文学専攻の学生を対象とする。ただし、教職課程(英語科)履修者の場合は、定員の範囲内で他専攻の学生も受け入れる場合がある。演習は原則として定員を15名とする。第2学年では、1科目のみ履修可能である。第3学年では、4科目まで履修可能である。第4学年では、履修制限はない。

留年者、復学者、学士入学者、第2学年編入者は、必ず英米文学専攻担任の面接を受けること。

履修案内を熟読しても、なお不明の点がある場合は遠慮なく専攻担任に尋ねて疑問を解消し、後に困難な事態に立ち至らぬよう留意されたい。

独文学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位	
必修 科目	30-11-11	テキスト研究中級 (2)	40 単 位	
	30-11-12	ドイツ文学史 (4) ドイツ文化史 (4)		
	30-11-13	ドイツ語学研究 (4)		
	30-11-14	現代ドイツ研究入門 (4)		
	30-11-21	テキスト研究上級 A (2) テキスト研究上級 B (2) } のうち 1 科目 (2)		
	30-11-22	ドイツ語作文初級 (2) ドイツ語作文中級 (2) コミュニケーション・ドイツ語中級 A (2) コミュニケーション・ドイツ語中級 B (2) コミュニケーション・ドイツ語上級 A (2) コミュニケーション・ドイツ語上級 B (2) ドイツ文法研究 (2) } のうち 3 科目 (6)		
	30-11-23	メディア研究 (4) ゲーテ時代研究 (4) ドイツ文化研究 I～III (4) ドイツ文学研究入門 (4) 現代ドイツ研究 (4) } のうち 2 科目 (8)		
	ゼミ	30-11-31		ドイツ語学文学ゼミナール I～VIII (各 2) のうち 3 科目 (6)
	卒試	30-11-41		卒業試験 (卒業論文)
	選択科目	30-11-55		大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目

2 必修科目

(1) 【第 2 学年指定科目】

以下の科目は、第 2 学年で履修すべき科目として指定されているが、第 2 学年で単位を取得できなかった場合は、第 3 学年で再度履修することが望ましい。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

ア 「テキスト研究中級」

イ 「ドイツ文学史」

ウ 「ドイツ語作文初級」, 「ドイツ語作文中級」のうち 1 科目

エ 「コミュニケーション・ドイツ語中級 A」, 「コミュニケーション・ドイツ語中級 B」 (この 2 科目を同一学年で並行して履修することが望ましい)

(2) 【第3学年指定科目】

以下の科目は、第3学年で履修すべき科目として指定されているが、第3学年で単位を取得できなかった場合は、第4学年で再度履修することが望ましい。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

ア 「テキスト研究上級 A」, 「テキスト研究上級 B」のうち1科目

イ 「コミュニケーション・ドイツ語上級 A」, 「コミュニケーション・ドイツ語上級 B」(この2科目は同一学年で並行して履修することが望ましい)

(3) 【卒業論文】

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修すること。(研究会とは別の登録番号があります)

3 選択科目

選択科目として、別に掲げた授業科目系列表に示された36単位以上を卒業までに履修し、単位を取得しなければならない。

4 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

- ・研究会、卒業論文以外の必修科目に関しては、選択科目として重複履修が認められる(A欄申告)。
- ・研究会は例外的に3科目まで必修科目として重複履修が可能である(A欄申告)。

(2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目の単位数が必要単位数を超えたときには、自動的に選択科目の単位とみなされる。

(3) 研究会(ドイツ語学文学ゼミナール)の履修方法

「ドイツ語学文学ゼミナール」のいずれかの担当者を指導教授として、卒業論文(卒業試験)作成にあたっての承認と指示を受けること。指導を受けたいと望む教員の担当するゼミナールには、第3学年と第4学年の2年間に継続して履修することが望ましい。第4学年においては、指導教授のゼミナールに出席すること。ゼミナールはいくつ履修してもよいが、3科目6単位までを必修単位とし、それを超えて履修する場合には選択科目とみなす(A欄申告)。

ゼミナールは第3学年および第4学年で履修することを原則とし、第2学年で履修を希望する者は選択科目として申告すること。

仏文学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

【授業科目系列表】 以下の表を用いて履修申告に記入する授業科目の分野番号を確認すること。
 なお、仏文学専攻設置の専門教育科目は、すべて半期科目である。

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必 要単位	
必修 科目	基礎 コース	30-12-11 フランス語学演習 I・II (各 1) フランス語表現演習 I~IV (各 1)	40 単 位	
		30-12-12 フランスの文化と歴史 I・II (各 2) フランス文学史 I・II (各 2)		
	専門 コース	30-12-21 フランス文学と近代 I~IV (各 2) フランス文学と現代 I・II (各 2)		} のうち 6 科目 (12)
		30-12-22 フランス文学史 III・IV (各 2) フランス語学 I・II (各 2)		
		30-12-23 フランス語学演習 III~VIII (各 1) フランス語表現演習 V~VIII (各 1) フランス文学演習 I~VI (各 1)		} のうち 12 科目 (12)
		30-12-31 フランス語学文学研究会 I・II (各 1): 3 年次履修		
		30-12-32 フランス語学文学研究会 III・IV (各 1): 4 年次履修		
	卒試	30-12-41 卒業試験 (卒業論文)		
	選択科目	30-12-55 大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目		36 単位

2 必修科目

【第 2 学年進級条件科目】

「フランス語学演習 I・II」, 「フランス語表現演習 I~IV」(基礎コースの他の科目は第 2 学年で履修することが望ましい。)

【第 2 学年インテンシヴ科目】

専門コースの演習科目の中には、初級フランス語終了者の学力強化を目的とした科目が設けられている(詳細は「講義要綱」を参照)。2 年生で集中的に学習したい者は履修すること。

【第 3 学年指定科目】

「フランス語学文学研究会 I」, 「フランス語学文学研究会 II」(専門コースの科目は第 3・4 学年で履修することが望ましい。ただし、上記の「第 2 学年インテンシヴ科目」は除く。)

【第 4 学年必修科目】

「フランス語学文学研究会 III」, 「フランス語学文学研究会 IV」

【卒業論文】

卒業試験は卒業論文によって行う。ただし、第 4 学年で留年した場合は、再度提出が必要。

4 年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験 (卒業論文)」を必ず履修すること(研究会とは別の登録番号がある)。

3 選択科目

「4- (1) 重複履修の取り扱いについて」と「4- (2) 超過履修の取り扱い」を参照のこと。

4 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

同一名称の科目の重複履修は認めない。文学部時間割表の科目名の後ろのアルファベットが異なっても同一科目名とみなされる。

ただし、「フランス語学演習 III～VIII」「フランス語表現演習 V～VIII」「フランス文学演習 I～VI」(分野番号 30-12-23) については、選択科目として重複履修が可能である。(分野 30-12-55：履修申告の際はB欄分野番号 55 を記入)

(2) 超過履修の取り扱い

必修科目専門コースの単位を指定数を超えて取得した場合は、これらを選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

(3) 研究会の履修方法

「フランス語学文学研究会 I・II」は、第 3 学年で指定科目として履修し、「フランス語学文学研究会 III・IV」は、第 4 学年で必修科目として履修すること。なお、第 4 学年で留年しても、研究会の単位自体は有効である。

また、第 2 学年では研究会は履修できない。第 3 学年以上でも、原則は 1 学年の間に 3 科目以上履修することはできない。ただし、第 3 学年時に留学する場合、帰国後第 4 学年の秋学期に集中して研究会を履修できる。

図書館・情報学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 注意事項

- (1) 履修の際の注意点は、学年初めのガイダンスで指示するので、必ず出席すること。
- (2) 学士入学者、留年者は、専攻担任のガイダンスを必ず受けること。
- (3) 2 年生は、授業開始までに三田 ITC でアカウント申請手続きを済ませること。

2 専門教育科目およびその単位数

図書館・情報学専攻における専門教育科目の必修科目ならびに選択科目とその単位数は次の通りである。

必修科目		選択科目		
図書館・情報学基礎 (2) 情報サービス基礎 I (2) 情報サービス基礎 II (2) 情報メディア基礎 I (2) 情報メディア基礎 II (2) 情報検索基礎 I (2) 情報検索基礎 II (2) 図書館・情報学原典講読 (2) 図書館・情報学研究法 (2) 図書館・情報学研究会 (2)	20 単 位 以 上	図書館概論 (2) 図書館の計画と経営 (2) 図書館資料論 (2) 図書館活動論 I～IV (各2) コミュニケーション史 (2) 資料組織論 (2) レファレンス・サービス論 (2) 図書館実習 (2)	28 単 位 以 上	52 単 位 以 上
		情報メディア概説 I～II (各2) 情報認識の基礎 (2) 情報メディアの構造と分析 I～II (各2) 情報メディア特殊 I～IV (各2)		
		情報検索概説 I～II (各2) 情報検索研究 (2) 情報探索行動 (2) データベース検索 (2) 情報検索システム (2) 情報処理技術 (2) 自然言語処理の基礎 (2) 画像・映像処理の基礎 (2)		
		書誌学 I～II (各2) 児童資料論 (2) 図書館・情報学特殊 (2)		
卒業試験 (卒業論文)		本大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目	24 以上 単位	

3 履修上の注意

【各学年共通】

- (1) 図書館・情報学を専攻する者は、図書館・情報学専攻専門教育科目の必修科目 20 単位、指定選択科目 28 単位以上およびその他の専門教育科目 24 単位以上、計 72 単位以上を修得しなければならない。ただし、その他の専門教育科目に図書館・情報学専攻設置の専門教育科目を含めることはできない。
- (2) 必修科目 20 単位は、特別の場合を除き、第 2 学年において 16 単位、第 3 学年において 2 単位、第 4 学年において 2 単位を履修するように配分されている。
- (3) 第 2 学年の必修科目および第 3 学年以降のコース必修科目をその年次で履修しない場合、時間割の関係上翌年度に両科目を履修することが不可能になり、卒業が遅れることがあるので留意されたい。
- (4) 図書館・情報学研究法は 3 年次に、また図書館・情報学研究会は 4 年次に、それぞれ指定された必修科目であって、他の学年次および他の専攻の者は自由科目としても履修できない。

- (5) 司書教諭資格の取得を希望する者は、教諭免許取得に必要な科目の他、原則として教職課程センターに設置されている「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディア論」、「学習指導と学校図書館」、「読書教育論」、「情報メディア利用論」の5科目を履修しなければならない。希望者は必ず専攻担任に相談すること。
- (6) 「情報」科をはじめとする各教科の教諭免許の取得を希望する者は、教職課程センターが実施するガイダンスに必ず出席すること。

【2年生】

- (6) 原則として、2年生は図書館・情報学専攻が設置する指定選択科目を履修することはできない。ただし、2年生で留年した者については、専攻担任と面談のうえ、履修を認める場合がある（その場合は必ずB欄申告すること）。
- (7) 第3学年に進級するためには、第2学年に配分されている必修科目8科目（16単位）のうち、5科目（10単位）以上を修得しなければならない。

【3年生】

- (8) 3年生は履修申告に際して所属コースを明記すること。
- (9) 図書館コース、情報メディアコース、情報検索コースのいずれか一つのコースを選択する。各コースごとに、コース必修科目と、コース選択科目が授業科目系列表のように定められているので、その指示通りに履修しなければならない。
- (10) 司書資格の取得を希望するものは、図書館・情報学専攻を卒業し、図書館コースで指定されている必修7科目、および「図書館活動論I～IV」、「児童資料論」のうちから3科目以上を修得しなければならない。なお、これらの科目は、情報メディアコース及び情報検索コースで指定されているコース選択科目の中に入ることができる。
- (11) 第4学年に進級するためには、「図書館・情報学研究法」を修得しなければならない。

【4年生】

- (12) 4年生は履修申告に際して所属コースを明記すること。
- (13) 文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること（研究会とは別の登録番号である）。卒業試験は卒業論文をもってあてる。卒業論文提出にあたっては、9月に開催される中間発表会および提出後に行われる最終面接に出席しなければならない。
- (14) 司書資格の取得を希望するものは、上の(10)の指示に従うこと。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)				卒業必 要単位					
必修 科目	必修2年 30-13-01	2年次	図書館・情報学基礎(2) 図書館・情報学原典講読(2) 情報サービス基礎Ⅰ(2) 情報サービス基礎Ⅱ(2) 情報検索基礎Ⅰ(2) 情報検索基礎Ⅱ(2) 情報メディア基礎Ⅰ(2) 情報メディア基礎Ⅱ(2)			20 単 位					
	研究会 30-13-02	3年次 4年次	図書館・情報学研究法(2) 図書館・情報学研究会(2)								
	卒業試験 30-13-11	卒業試験(卒業論文)									
指定 選択 科目 3・4 年次	図書館コース		情報メディアコース		情報検索コース		28 単 位				
	分野 (B欄)	授業科目名(単位)	分野 (B欄)	授業科目名(単位)	分野 (B欄)	授業科目名(単位)					
	図必修 (21)	図書館概論(2) 図書館の計画と経営(2) コミュニケーション史(2) 図書館資料論(2) 資料組織論(2) レファレンス・サービ ス論(2) 図書館実習(2)	メ必修 (31)	情報メディア概説Ⅰ(2) 情報メディア概説Ⅱ(2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と 分析Ⅰ～Ⅱ(各2)	検必修 (41)	情報検索概説Ⅰ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) 情報探索行動(2) 情報検索システム(2) 情報検索研究(2) データベース検索(2) 情報処理技術(2)		14 単 位			
	30-13- 21	14 単 位	30-13- 31	10 単 位	30-13- 41	14 単 位					
図指定 選択 (22)	図書館活動論Ⅰ(2) 図書館活動論Ⅱ(2) 図書館活動論Ⅲ(2) 図書館活動論Ⅳ(2) 児童資料論(2) のうち、3科目6単位 以上	メ指定 選択 (32)	情報メディア特殊Ⅰ(2) 情報メディア特殊Ⅱ(2) 情報メディア特殊Ⅲ(2) 情報メディア特殊Ⅳ(2) 図書館資料論(2) 資料組織論(2) 情報探索行動(2) のうち、4科目8単位 以上	検指定 選択 (42)	自然言語処理の基礎(2) 画像・映像処理の基礎(2) レファレンス・サービス論(2) 情報認識の基礎(2) 情報メディアの構造と分析Ⅰ～Ⅱ (各2) のうち、2科目4単位以上	30-13- 22	30-13- 32	30-13- 42	14 単 位		
コース 選択 (23)	図書館コースのコース 必修科目(図必修)以 外の指定選択科目(注1) また、それ以外に次 の科目もコース選択科 目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) 図指定選択とコース選 択の両方あわせて14単 位以上を履修すること	14 単 位	コース 選択 (33)	情報メディアコースの コース必修科目(メ必 修)以外の指定選択科 目(注2) また、それ以外に次 の科目もコース選択科 目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) メ指定選択とコース選 択の両方あわせて18単 位以上を履修すること	18 単 位	コース 選択 (43)	情報検索コースのコース必修科目 (検必修)以外の指定選択科目 (注3) また、それ以外に次の科目もコ ース選択科目として履修すること ができる。 ・書誌学Ⅰ・Ⅱ(各2) ・図書館・情報学特殊(2) 検指定選択とコース選択の両方あ わせて14単位以上を履修すること	30-13- 23	30-13- 33	30-13- 43	14 単 位
選択 科目	(55) 30-13- 55	本大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目				24 単 位					

※ 指定選択科目のB欄分野番号は2年留年者のみ使用(B欄分野番号は上表参照)

注1: メ必修, 検必修, 図指定選択, メ指定選択, 検指定選択の分野科目がそれにあたる

注2: 図必修, 検必修, 図指定選択, メ指定選択, 検指定選択の分野科目がそれにあたる

注3: 図必修, メ必修, 図指定選択, メ指定選択, 検指定選択の分野科目がそれにあたる

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.

社会学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

社会学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位
必修科目	30-14-11	次の 3 科目を第 2 学年で修得すること。 社会学概論 (4) 社会心理学概論 (4) 文化人類学概論 (4)	12
	30-14-12	次の 3 科目を卒業までに修得すること。 社会学史 (4) 社会調査 I (2)・II (2)	8
	30-14-21	次の科目のうちから卒業までに 20 単位を履修すること。 医療社会学 (4) 家族・親族論 (4) 教育社会学 (4) 現代社会学 (4) コミュニケーション学 (4) 宗教社会学 (4) 対人影響論 (4) 知識社会学 (4) 都市社会学 (4) 日本社会学論 (4) 比較文化論 (4) 普及学 (4) 文化社会学 (4) 社会学特殊 I~XII (各4) 社会学特講 I~VII (各2)	20
	卒試	30-14-41 卒業試験 (卒業論文) 30-14-42 卒業試験 (社会学専攻)	
選択科目	指定選択	30-14-51 社会学研究会 I (2) (卒業論文コースの者は、「社会学研究会 I・II (各2)」 30-14-52 社会学研究会 II (2) 合計 4 単位を必ず含めること)	32 単位以上
	選択	30-14-55 大学設置 (学部学則 35 条 3 項参照) の専門教育科目 社会学専攻設置の「社会学原典講読 (2)」および「社会学洋書講読 (2)」を含める。	

2 必修科目

【第 2 学年】

(1) 進級条件科目

- ① 社会学概論
- ② 社会心理学概論
- ③ 文化人類学概論

これらの授業科目は必ず第 2 学年で修得すること。1 科目でも不合格であれば進級できないから、十分注意しなければならない。

(2) 第 2 学年においては「卒業論文コース」を将来目指すものであっても、「研究会」を選択履修することはできない。

【第 3・4 学年】

(1) 「卒業論文コース」

「卒業論文コース」をとる者は、第 3・4 の両学年において、社会学研究会 (I・II) を履修・合格しなければ、

最終年度において卒業論文を提出する資格を得ることができない。第4学年で別の担当者の研究会に変更し、その担当者に卒論を提出することを希望する場合は、変更前・変更後の担当者との相談を、履修申告前に行わなければならない。なお「卒業論文コース」の者が、研究会担当者の承認を受けて中途および第4学年で「非卒業論文コース」に移行することもありうる。ただし、第4学年で、履修届の提出後においては、移行できない。

(2) 「非卒業論文コース」

「非卒業論文コース」の者は、4年次において次の卒業試験指定科目のうち、1科目を履修・合格し、さらに同一分野の卒業試験に合格しなければならない。

- ① コミュニケーション学
- ② 宗教社会学
- ③ 家族・親族論

【第4学年】

- (1) 卒業に必要な単位数を充足しても、卒業論文もしくは卒業試験（非卒業論文コースの者）に合格しなければ卒業できない。

4年生は文学部時間割に記載されている「卒業試験」を必ず履修すること。

- (2) 非卒業論文コースの者に課せられる卒業試験については、卒業試験指定科目が決められている。非卒業論文コースの者は、4年次（卒業年次）において次の卒業試験指定科目のうち、1科目を履修・合格し、さらに同一分野の卒業試験に合格しなければならない。指定科目が前年度までに修得済みであっても4年次（卒業年次）において自由科目として履修・合格しなければならない。卒業試験指定科目は以下のとおりである。

- ① コミュニケーション学
- ② 宗教社会学
- ③ 家族・親族論

- (3) 4年次留年者は改めて「卒業試験」を履修し合格しなければならない（4年次に「卒業試験」に合格していても、改めて、卒業試験指定科目及び卒業試験を、あるいは4年次研究会及び卒業論文を自由科目として履修しなければならない）。

3 各学年共通

- (1) 重複履修の取り扱いについて

- ・過年度に履修済みの必修科目を選択科目として再履修することは認めない。再履修の場合は自由科目となる。
- ・社会学特殊 I~XII, 社会学特講 I~VIIについては各々を独立した科目として認める。ただし、同一番号科目の二度以上の履修については自由科目とする。
- ・社会学原典講読および社会学洋書講読については各々選択科目として認める。ただし同一語種科目の二度以上の履修については自由科目とする。

- (2) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

選択必修科目（分野 30-14-21）を指定単位数を超えて履修した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う。

- (3) 研究会の履修方法

研究会は、選択科目または自由科目として申告することになるので、次の分野番号で申告すること。

	研究会 I	研究会 II
3年生が履修する場合 ⇒	A 欄申告	自由科目 (B 欄分野番号 99)
4年生が履修する場合 ⇒	自由科目 (B 欄分野番号 99)	A 欄申告

※ 2年生で履修することはできません。

心理学専攻

(平成19年度第2・第3・第4学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

心理学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要 単位	
必修 科目	30-15-11	知覚心理学 I (4) 発達心理学 I (4) 行動分析学 I (4)	38 単 位	
		認知心理学 I (4) 生物心理学 I (4)		
	30-15-12	心理測定論 (2) 心理学史 (2)		
	30-15-13	心理統計 (4)		
	30-15-14	心理学原典講読 (2)		
	30-15-15	心理学実験 I (2) 心理学実験 II (2)		
	研究会	30-15-31		心理学研究会 I (A)～(F) (各2)
	30-15-32	心理学研究会 II (A)～(F) (各2)		
卒試	30-15-41	卒業試験 (卒業論文)		
選択 科目	指定 選択	30-15-51	心理学専攻設置の専門選択科目 (【専攻設置科目表】を参照)・人間関係学系設置の必修科目のうち 20 単位以上。	20 単位 以上
	選択	30-15-55	大学設置 (学部学則 35 条 3 項参照) の専門教育科目	34 単位 以上

2 進級条件科目および各学年指定専門教育科目

	指定専門科目	進級条件科目
第2学年	心理学原典講読 (2) 知覚心理学 I (4) 発達心理学 I (4) 行動分析学 I (4) 認知心理学 I (4) 生物心理学 I (4)	心理学原典講読 (2) を含めて 4 科目 (計 14 単位) を修得しなければならない。
	心理統計 (4)	
第3学年	心理学史 (2) 心理測定論 (2)	*心理学実験 I (2)
	心理学実験 I (2) 心理学実験 II (2)	*心理学実験 II (2)
	心理学研究会 I (2)	心理学研究会 I (2)
第4学年	心理学研究会 II (2)	

*心理学実験 I (2) と心理学実験 II (2) はセットで履修すること

3 各学年共通

(1) 重複履修の取り扱いについて

心理学専攻設置の専門選択科目（各心理学のⅡと、心理学特殊Ⅱ，Ⅲ）で担当者の異なる科目については重複履修を認め、指定選択科目の必要単位として取り扱う。

(2) 研究会の履修方法

同一担当者の研究会を第3・4学年にわたり履修することを原則とする。また、第3学年では心理学研究会Ⅱを、第4学年では心理学研究会Ⅰを自由科目（B欄99）として履修することを原則とする。

(3) 卒業試験（卒業論文）について

卒業試験は卒業論文とする。卒業論文は履修する心理学研究会Ⅱの担当者に提出し、その審査に合格しなければならない。第4学年は文学部時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修すること（研究会とは別の登録番号がある）。

(4) 注意

各学年の指定専門科目をその年次で履修しない場合、時間割の関係上翌年度に履修することが不可能になり、卒業が遅れることがあるので留意されたい。

【専攻設置科目表】

専 門 選 択 科 目	心理学特殊Ⅰ（4）	行動分析学Ⅱ（2）	パーソナリティ理論概説（4）
	心理学特殊Ⅱ（2）	認知心理学Ⅱ（2）	認知臨床心理学（4）
	心理学特殊Ⅲ（2）	生物心理学Ⅱ（2）	発達臨床心理学（4）
	知覚心理学Ⅱ（2）	数理心理学（2）	言語障害臨床（4）
	発達心理学Ⅱ（2）	クリニカルワーク概説（4）	

教育学専攻

(平成19年度第2・第3・第4学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

- (1) 教育学専攻設置の学科目は〔必修科目〕(研究会, 卒試を含む), 〔選択必修科目〕および〔指定選択科目〕から構成され, その単位数は以下の通りである。
- (2) 卒業までに必修8科目(26単位), 選択必修8科目から3科目(12単位), 研究会2科目(4単位), 選択科目(指定選択科目を含む)30単位以上を履修しなければならない(履修方法に関しては後述の規定に従うこと)。
- (3) 卒業試験は卒業論文によって行なう(卒業論文の指導担当者および担当者は研究会担当者と同一)。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授 業 科 目 名 (単位)	卒業必要単位		
必修科目	必修	30-16-11 教育学概論(4) 教育学原典講読(2)	42 単 位		
		30-16-12 教育史(4) 教育学史(4) 比較教育学(4) 教育心理学概論(4)			
		30-16-13 教育学演習Ⅰ(2), 教育学演習Ⅱ(2)			
	選択必修	このうち12単位以上		30-16-21 教育学特殊Ⅰ(4) 教育学特殊Ⅱ(4) 教育学特殊Ⅲ(4) 教育学特殊Ⅳ(4) 教育学特殊Ⅴ(4) 教育学特殊Ⅵ(4) 教育学特殊Ⅶ(4) 教育学特殊Ⅷ(4) 教育学特殊Ⅷ(4)	
				研究会	30-16-31 教育学研究会Ⅰ(2) 30-16-32 教育学研究会Ⅱ(2)
				卒試	30-16-41 卒業試験(卒業論文)
				選択科目	指定選択
選択	30-16-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目				

2 履修上の規定

【第2学年】

(1) 進級条件科目

教育学概論, 教育学原典講読

(2) 教育学原典講読履修について

第2学年の履修者は、まず2つ(年度によっては4つ)のグループに分かれてもらい(グループ分けは混乱を避けるため専攻担任が決定する)、春学期「教育学原典講読A」「教育学原典講読B」「教育学原典講読C」「教育学原典講読D」にそれぞれ属してもらおう。秋学期はこれをそっくり交換し、春学期にA(C)を受けたものはB(D)に、B(D)を受けたものはA(C)に属してもらおう。これは、なるべく異なった分野の教育学研究を原典で経験してもらい、3年次の研究会選択に活かしてもらいたいためである。履修申告は春学期に属した担当教員の名で行なうこと。

【第3学年】

第3学年の学生は、必ずいずれかの担当者の教育学演習I, 教育学研究会Iを履修すること。これらは第4学年への進級条件科目である。ちなみに、研究会は卒論指導のために設けられたものであり、演習と密接な関係もっているので、演習と同じ担当者の研究会を履修すること。

【第4学年】

第4学年の学生は、必ず教育学演習II, 教育学研究会IIを履修すること。なお、それらは第3学年次に履修した教育学演習I, 教育学研究会Iと同一担当者のものであることが原則である。

3 各学年共通

(1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目の中の選択必修科目(教育学特殊I~VIII)を指定単位数を超えて履修した場合は、その超えた分は選択科目とみなし卒業単位として取り扱う。ただし、同一名称のものを卒業時までもう一度履修した場合は自由科目扱いとなり、選択必修科目、選択科目とみなされることはない。

(2) 選択科目について

指定選択科目とは、高度専門的に教育学研究を目指す場合、必要と考えられる方法や内容に焦点を当てた科目である。したがって、専攻の設置する専門科目ではあるものの、あえて必修科目とはせず、選択科目扱いとしている。各研究会でより高度な卒論を目指す学生や、大学院進学を考えている学生の積極的履修を期待する。

(3) その他

第4学年で留年した場合、必修の「研究会」等の科目がすでに履修済みならば、再度その科目を自由科目として履修する必要はない。ただし、「卒業試験(卒業論文)」(研究会とは別の登録番号がある)は必ず履修すること。

人間科学専攻

(平成 19 年度第 2・第 3・第 4 学年生に適用)

1 専門教育科目およびその単位数

人間科学専攻が今年度開講する必修科目 (I~III 類) および選択科目とその単位数, および進級条件・卒業までに必要な単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	備考	卒業必要単位		
必修科目	I 類 4 単位	30-17-11	人間科学基礎 (2) 人間科学研究法基礎 (2)	第 2 学年次進級条件科目 ——これらに 1 科目でも不合格(D)があれば第 3 学年に進級することができない。	38 単位以上	
		30-17-12	人間科学諸領域 I (2) 人間科学諸領域 II (2) 人間科学諸領域 III (2) 人間科学諸領域 IV (2)			第 2 学年次履修指定科目 ——第 2 学年次に履修することを原則とする。第 2 学年中に最低 2 科目 (4 単位) を選択履修し, 合格すること。この条件が充足されなかった場合は第 3 学年に進級することができない。
	III 類 26 単位以上	30-17-21	人間科学研究法 (2) 人間科学研究法 (4) 人間科学演習 (2) 人間科学特殊 (2) 人間科学特殊 (4)	この類より 26 単位以上を選択して履修する。		
		30-17-31	人間科学研究会 I (A)~(J) (2) <コース A>			
		30-17-32	人間科学研究会 II (A)~(J) (2) <コース A>			
		30-17-33	人間科学卒業研究 (2) <コース B>			
		30-17-41	卒業試験 (卒業論文) <コース A>			
	30-17-42	卒業試験 (人間科学専攻) <コース B>				
	選択科目	30-17-55	大学設置 (学部学則第 35 条 3 項参照) の専門教育科目 (2) または (4)	34 単位以上を履修する ——III 類として履修しなかった科目を選択科目として履修することができる。		34 単位以上

今年度開講される III 類科目 (人間科学研究法・人間科学演習・人間科学特殊) は以下の通りである。

人間科学研究法	(観察・実験)(4) (計量と解析)(4) (データ解析)(4) (測定と記述)(4) (調査)(4)
人間科学演習	(文献講読)(2) (モダンデザインと情報化)(2) (洋書講読)(2)
人間科学特殊	(生涯発達心理学 I)(4) (生涯発達心理学 II)(4) (現代家族論)(4) (パーソナリティ研究)(4) (臨床心理学)(4) (コミュニティ心理学)(4) (比較文化関係論)(2) (米国の多民族社会と文化)(4) (精神病理学)(2) (社会システム論)(2) (芸術と人間)(2) (現代日本人のライフスタイル I)(2) (現代日本人のライフスタイル II)(2) (都市生活と景観 I)(2) (都市生活と景観 II)(2) (スポーツ社会心理学)(2) (スポーツメディア論)(2) (意志決定論)(2) (文化と技術 I)(2) (文化と技術 II)(2)

2 第3学年次におけるコースの選択とその決定

- (1) 第3学年次において、「卒業論文」(ゼロ単位)をもって「卒業試験」に代替するコース(以下、コースAとよぶ)、または、「卒業試験」(ゼロ単位)を卒業の要件とするコース(以下、コースBとよぶ)のいずれかを選ばなければならない。
- (2) コースAを志望する学生は、①第2学年次の秋学期に行われるガイダンスに基づいて、「卒業論文」の指導を仰ぐ教員を選定し、②当該教員にその旨を申し出、当該教員の審査を受け、これに合格した上で、③当該教員の担当する「人間科学研究会I」(2)を第3学年次で、「人間科学研究会II」(2)を第4学年次で修得し、④第4学年次の定められた期日までに「卒業論文」を提出し、論文の審査(「卒業試験」に充当する)に合格しなければならない。
- (3) コースBを志望する学生は、①第4学年次秋学期開講の「人間科学卒業研究」(2)を含めて、卒業までにIII類26単位以上を修得し、②「卒業試験」に合格しなければならない。③「卒業試験」は、「人間科学卒業研究」の修得をもって代替する。
- (4) 第3学年次にコースAを選択した学生が第4学年次履修申告時に「人間科学研究会II」を履修しない場合には、コースBへの変更となる。この変更をした場合、「人間科学研究会I」の単位が修得済みであればIII類の単位として認める。
- (5) コースBを選択し第4学年次で卒業できなかった場合、「人間科学卒業研究」の単位は取り消される。次年度に再度「人間科学卒業研究」を履修しなければならない。
- (6) コースAを選択し第4学年次で「人間科学研究会II」を修得しながら卒業できなかった場合、次年度にコースBに変更して「人間科学卒業研究」を履修しなければならない。
- (7) コースA・コースBそれぞれにおける卒業要件を要約して示せば下表のとおりである。

卒業要件		コースA	コースB
専門必修科目 (38単位以上)	I類	4単位	4単位
	II類	8単位	8単位
	III類	人間科学研究会I・II(各2) を含めて26単位以上	人間科学卒業研究(2) を含めて26単位以上
専門選択科目(34単位以上)		34単位以上	34単位以上
卒業試験(*)		卒業論文(0単位)	人間科学卒業研究(2)の 修得をもって代替する
卒業に必要な専門教育科目の総単位数		72単位以上	72単位以上

(*) 研究会・卒業研究のほかに「卒業試験(卒業論文)」<コースA>または「卒業試験(人間科学専攻)」<コースB>の履修申告もすること。

3 各学年共通

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
III類科目を指定単位を超えて履修した場合、超えた分の単位を選択科目とみなして、その取得単位を卒業に必要な選択科目単位として取り扱う。
- (2) 同一名称科目の取扱いについて
「人間科学研究法」、「人間科学特殊」、「人間科学演習」の科目名の後に付される()内は開講題目で、年度によって変更されることもある。また、科目名の後の()内に異なる名称が付されている場合、それぞれを別科目として取り扱う。ただし、この取り扱いは人間科学専攻の学生に限る。

4 その他

- (1) 春学期の授業開始直前の「専攻別ガイダンス」において、科目履修上の細かい説明を行うので、専攻学生は全員必ず出席されたい。
- (2) 2年生諸君は、「専攻別学生カード」を「人間科学基礎」の第1回目授業時に必ず持参し提出されたい。
- (3) 履修申告の控えを必ずとり、成績表が送られてくるまでは保存しておくこと(控えがないために履修上の問題の“責”がいずれにあったのか判断のつきかねる場合があるので、このことをくれぐれも注意されたい)。

B欄による申告方法（2・3・4年生【04学則】）

履修申告欄は、A欄・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは下記のとおりです。

1 通常はA欄にて履修申告してください。

2 B欄での履修申告は、変則的な履修をする場合に行います。B欄分野番号(2桁の数字)を使って、どの分野の単位として履修申告するかを、学則に決められた範囲内で申告することができます。

- (1) ひとつの科目に対して複数の分野が選択できる科目の場合に使用します。
- (2) B欄分野番号は、通常とは異なる変則的な履修を可能とします(自由科目の履修など)。
- (3) B欄分野番号は学部により異なります。

【注意】

- 1 学則ならびに各専攻内規により許可されている分野以外での履修は一切認められません。
- 2 ほとんどの場合、履修申告はA欄にて行います。例年、A欄申告できる科目にもかかわらず、B欄申告をしたことにより、誤った分野で履修してしまう例が散見されますので、くれぐれも注意してください。
- 3 他専攻の科目を選択科目として履修申告する場合もA欄申告になります。

B欄による申告方法（2・3・4年生【04学則】）

●全専攻共通事項

専攻	B欄 分野番号	分野コード	使用例
共通	40	20-40-20 総合教育科目 (系列外)	・必修語学科目を総合教育科目(系列外)として履修する場合 ※P.22の「総合教育科目および語学科目一覧」で、総合教育科目(系列外)の「20-40-20」に分野配当されている科目(アラビア語Ⅰ、イタリア語入門など)はA欄申告をしてください。
共通	45	20-40-30 総合教育科目 (系列外)	他学部設置の全学部共通外国語科目(三田)を総合教育科目(系列外)として履修する場合
共通	90	10-90-21 必修語学科目 (日本語)	留学生が必修語学として日本語ⅡA・日本語ⅡBを履修する場合
共通	55	30-* *-55 選択科目	<u>他学部設置の専門教育科目を文学部の専門教育科目(選択科目)として履修する場合</u> 【2年生は履修申告不可(3・4年設置科目のため)】 ※文学部他専攻設置の専門科目はA欄申告してください。
共通	99	99-99-99 自由科目	・同一科目名を重複して履修する場合、片方は自由科目として申告(ただし、専攻内規により重複履修が認められている科目はA欄申告) ・自由科目として申告する場合

●各専攻別内規により特に指示がある場合

専攻	B欄 分野番号	分野コード	使用例
哲学	55	30-01-55 選択科目	研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修申告
東洋史	91	10-91-21 必修語学科目 (諸国語)	アラビア語・ペルシア語・トルコ語を必修語学として履修する場合
	51	30-05-51 指定選択科目	研究会を二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修
民族学 ・考古学	55	30-07-55 選択科目	・第2学年で研究会を履修する場合 ・研究会を同一学年で二つ以上履修する場合、片方は選択科目として履修
国文学	51	30-08-51 選択科目	①国文学・国文学史・国文学演習・国語学演習・日本語文法・漢文講読 →同一科目名・同一担当者の科目を再履修する場合 ②国語学Ⅰ・Ⅱ →担当者の異同に関わらず、再履修する場合 ※①②いずれも再々履修は自由科目(B欄分野番号99)
英米文学	55	30-10-55 選択科目	英語学演習、英文学演習、米文学演習 →同一科目名・同一担当者の科目を再履修する場合 ※再々履修は自由科目(B欄分野番号99)
仏文学	55	30-12-55 選択科目	フランス語学演習Ⅲ～Ⅷ、フランス語表現演習Ⅴ～Ⅷ、フランス文学演習Ⅰ～Ⅵ、を重複履修する場合

学事 Web システム履修申告 (マニュアル) 【2・3・4年生共通 (04学則)】

1 学事 Web システムについて

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。パスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまで使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

ID (個人の学籍番号) と『学事 Web システムパスワード』が必要となります。

学内の PC を利用するための三田 ITC 発行パスワードとは異なります。

【利用機能・説明】	学事 Web システム URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/	利用期間	携帯利用
●履修申告	4/13 10:00 ~ 4/17 14:00 まで		限定	×
●登録済科目確認	登録した履修中の登録科目が確認できます。履修申告後は、数日停止しますが 4/19 9:00 より科目の確認を再開します ※最終確認は、5月上旬に送付する履修申告科目確認表で、必ず行ってください。		常時	×
●休講・補講情報	学外からも休講・補講の確認が可能です		常時	○
●パスワード変更 (学事 Web システム)	学事 Web システムのパスワードを忘れた場合、学事センターにて再交付します (注)		常時	○
●学生呼出情報			常時	○

【注意】

- ・学事 Web システムは、4月2日 (月) から休講・補講情報の確認ができます。必ず4月6日 (金) までにログインできることを確認してください。
- ・もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月6日 (金) までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください (2006年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2007年3月に送付した学業成績表に印字されています)。
- ・学内のパソコンを利用するための **Windows パスワード** を忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター (三田 ITC: 大学院棟地階) で変更申請の手続きを行ってください。
- ・学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、三田 ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名: 学籍番号

Windows アカウントのユーザー名: f*****

2 学事 Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] 及び [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押したり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そ

のような場合には、一旦ブラウザを終了し、10秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の「登録」ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。

- 学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。各種設定の方法については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

3 学事 Web システムによる履修申告方法

学則および履修案内を熟読し、秋学期科目を含む本年度履修するすべての科目を正しく申告してください。期日までに履修申告をしない場合は、就学の意志がないものとして退学処分になることがありますので、十分気をつけてください。(学部学則第188条)

履修申告に誤りがあれば登録されず、履修調整の対象になりません。履修申告は原則 Web で、やむをえない場合のみ申告用紙で行ってください。履修申告は学事 Web システムによる申告あるいは履修申告用紙による申告の、どちらか一方で行ってください。

- (1) 2007年度の学事 Web システムによる履修申告日程および URL

日程：4月13日(金)10:00から17日(火)14:00まで

学事 WEB システムの URL : <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

※学事 WEB システムは、保守のため午前4:00から1時間ほど利用できません。

※履修申告はブラウザのみです (携帯端末用メニューからは操作できません)。

※受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締切までに申告の修正を行ってください。

- (2) 学事 Web システムによる履修申告のすすめ

学事 Web システムによる履修申告の大きなメリット

- ① 申告期間中であれば、いつでも、何回でも履修の修正が可能
- ② 申告期間中であればエントリーされている科目を画面で確認することが可能

- (3) その他

操作方法については、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> の画面内にマニュアルを用意してあります。また、「4. 学事 Web システムの操作説明」を参照してください。

4 学事 Web システムの操作説明

1 履修申告の方法

- (1) **URLの入力** : <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

[ブラウザ用] を選択してください。

(学事 Web システムの操作方法 (特にログインできない場合などの解説) や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。)

- (2) **[ログイン] ボタン**

[ログイン] ボタンを押してください。

※この画面以降は、ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

(3) ログイン (ログイン画面)

「ID (学籍番号)」と、配布された「学事 WEB システム初期パスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。画面がうまく表示されない場合は、前述の「ログインできない場合はこちら」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

(4) トップメニュー画面

「本人住所確認」で登録されている住所を確認してください。ここに登録されている住所宛に履修申告科目確認表を郵送します。住所変更が必要な場合は、学生証を持参のうえ、至急学事センター窓口で住所変更手続きをとってください。

(5) 履修申告メイン画面 (トップメニュー画面)

[履修申告] ボタンを押して、「WEBによる履修申告上の注意」を選択し、必ず注意文を熟読してから、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンを押してください。

(6) 科目の選択 (履修申告メイン画面)

以下の2通りの方法により科目の選択ができます。

① 時間割から科目を選択したいとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、ボタンを押してください (初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が指定されています)。

科目選択画面 (時間割選択) が表示されますので、曜日時限ごとに科目および分野をドロップダウンリストから選択し、最後に [選択を終了] を押してください。

② 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンを押してください。科目選択画面 (登録番号) が表示されますので、履修書類配布時に配布された時間割表記載の5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認した上で、最後に [選択を終了] を押してください。

※①②いずれの方法も、分野 (A・B欄) の選択はマークシート用紙による記入と同様ですので、履修案内等を参照してください。

※B欄申告は変則的な履修をする場合のみ使用し、ほとんどの場合はA欄申告できます。「B欄による申告方法」(P.70)をよく読み、正しく申告してください。

(7) 科目の確認

選択した科目が、一覧表示されますので確認してください (選択直後は〈状態〉欄に「未登録」として表示されます)。

(8) 科目の取消 (履修申告メイン画面)

取り消したい科目の登録No.の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンを押してください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください (登録ボタンを押さないと削除は実行されません)。

(9) 登録科目の確認 (履修申告メイン画面)

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。(6)・(8)で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

① 選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、結果が表示されます。

② エラーメッセージの詳細は、「履修申告メイン画面」のSTEP2の横にある [エラーの詳細説明] を参照してください。

③ エラーがある場合には、〈状態〉欄に「保留中」と表示される場合があります。

④ 「保留中」で残っている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

⑤ 上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。

⑥ この画面を控えとしてプリントアウトしてください。

⑦ 登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンを押し、(6)からの手順を再び行ってください。

⑧ 登録内容に間違いがなければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ここで web ブラウザーを終了しないでください (ブラウザーの右上の×印をクリックしないでください)。

(10) ログアウト (トップメニュー画面)

[ログアウト] ボタンを押して、ログアウトしてください。

2 登録済科目確認

履修申告で登録された科目は、以後ある一定期間においてWebシステムから再度確認することができます。

(確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)

前述4の(4)(トップメニュー画面)の画面から、[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

3 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様にすることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は通常講義と異なり、学事 Web システムの休講情報は対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および各キャンパスの掲示板で確認してください。

【ブラウザー編】

(1) 休講・補講情報検索条件設定画面

前述4の(4)(トップメニュー画面)の画面から [休講・補講情報] ボタンを押してください。

(2) 検索条件設定

自分の履修中科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索対象を選択してください、また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンを押してください。

(3) 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講・補講が取り消された(したがって通常通り実施する)科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンを押して、ログアウトしてください。

【携帯端末編】

(1) URL の入力

学事 Web システム URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の画面から入力 (詳しくは携帯電話の説明書をお読みください) し、前述4の(1)の画面上で [携帯端末用メニュー] を選択してください。以後、Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記、学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくと便利です (詳しくは携帯電話の説明書をお読みください)。

(2) サーバーの選択 ([i-mode 専用] もしくは [i-mode 以外の携帯端末] のいずれかを選択してください)

[サーバー1] もしくは [サーバー2] を選択してください。選択は任意です。

(3) ログイン (学事情報ページ)

学籍番号と学事 Web システムパスワードを入力し、[ログイン] ボタンを押してください。

(4) 休講・補講情報の選択

この画面から、[休講情報] ボタンを押してください。補講情報の確認やパスワードの変更もこの画面からできます。(後述4を参照)

(5) 検索条件設定と休講情報の確認

自分の履修中科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

4 パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを再設定することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

(1) トップメニュー画面

前述4の(4)(トップメニュー画面)の画面から、[パスワード変更] ボタンを押してください。

(2) パスワードの変更

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所(再入力欄にも同じものを入力する)入力後、[パスワード変更] ボタンを押してください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください(大文字/小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するためのWindowsアカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

5 履修申告用紙による方法

用紙配布期間 4月10日(火)・11日(水) 8:45~16:45 学事センター

用紙提出日 4月17日(火) 8:45~14:00 学事センター前受付ボックス

(1) 申告用紙の取扱い

- ①今年度履修する科目をすべて記入します。
- ②登録番号は、時間割に記載されている5桁の数字です。科目名・教員名・番号が正しく記入されても、マークを間違えると登録されません。
- ③履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、無効マーク欄を塗りつぶして無効にした上で、改めて正しい科目を記入してください。
- ④履修申告用紙の記入欄が足りない場合は、学事センター窓口に出してください。
- ⑤提出期限外の受付は一切できません。
- ⑥履修申告用紙提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また履修申告用紙の閲覧、履修科目の照会にも応じません。
- ⑦履修申告用紙の控え(コピー)を必ず手元に残すようにしてください。
(学事Webシステムによる申告であれば、履修の修正と確認が可能です。詳細は「学事Webシステムによる方法」を参照してください。)

(2) 履修申告内容の確認とエラー修正申告

- ①履修申告用紙提出後、科目登録の確認を5月上旬に行います。学事センターから履修申告科目確認表を郵送します。
- ②手元に残した履修申告用紙の控えと科目名、担当者名、曜日、時限、分野等を必ず確認してください。
- ③履修の確認はエラー修正期間(5月上旬を予定)までに行い、修正すべき点または疑問点があれば、エラー修正期間に必ず申し出なければなりません。エラー修正期間以外の修正は受けません。履修エラーが残っている場合は、進級条件や卒業要件に関わらず全て削除される場合があります。
- ④エラー修正申告時は、氏名・学籍番号と修正申告する科目の情報のみを記入してください。
- ⑤確認を怠ったために生じた申告漏れ、科目の間違いなどは各自の責任となりますので十分注意してください。

提出日 年 月 日

履修申告用紙

1. 登録欄には、曜日・学期・科目名・教員名・登録番号を記入し、形勢(春・秋)・登録中(登録中を含む)のいずれかに記入し、登録番号枠をマークしてください。(登録欄の場合は、分野2桁も記入、マークしてください。)

2. マークにはH・Bの色の黒色鉛筆を使用してください。(ボールペン、サインペン、万年筆は不可)

3. 折り曲げたり、汚したりしてはけません。

4. 訂正する際は、消しゴムできれいに消すか、「無効マーク」に「無効マーク」を記入し、訂正欄に記入してください。【無効マーク】は「無効マーク」の欄に記入してください。

5. 所定欄以外には、マークしたり記入したりしてはけません。

特記欄

文 学部 修士 博士
人文社会 学 科 〇〇〇 専 攻
学 年 組

学籍番号

枚目 / 枚中

氏名

マークを
忘れずに

①と②の
塗り間違いに注意!

書き間違いは
ここにマーク

分野は
正しいですか?
必ずB欄分野
番号表を参照
してください。

<履修エラー修正期間>

履修申告期間に登録した内容でエラー解消のために分野を修正する場合は、削除欄には記入せず、裏面の追加申告欄に正しく記入してください。

履修申告用紙(修正申告用)

提出日 年 月 日

1. 登録欄には、曜日・学期・科目名・教員名・登録番号を記入し、形勢(春・秋)・登録中(登録中を含む)のいずれかに記入し、登録番号枠をマークしてください。(登録欄の場合は、分野2桁も記入、マークしてください。)

2. マークにはH・Bの色の黒色鉛筆を使用してください。(ボールペン、サインペン、万年筆は不可)

3. 折り曲げたり、汚したりしてはけません。

4. 訂正する際は、消しゴムできれいに消すか、「無効マーク」に「無効マーク」を記入し、訂正欄に記入してください。【無効マーク】は「無効マーク」の欄に記入してください。

5. 所定欄以外には、マークしたり記入したりしてはけません。

特記欄

文 学部 修士 博士
人文社会 学 科 〇〇〇 専 攻
学 年 組

学籍番号

氏名

マークを
忘れずに

A 欄から B 欄に変更する場合は
削除欄は使用しない。
(その逆も同じ)

正しく登録したい申告欄に
記入してください。